

中井町都市マスタープラン

＜都市の現況・動向把握＞

中井町都市マスタープラン 都市の現況・動向把握

<目 次>

1. 都市の現況・動向把握	1
(1) 人口・世帯数	1
① 人口	1
② 世帯	2
③ 人口動態	4
④ 字別人口の推移	6
⑤ 通勤・通学流動	12
(2) 土地利用	14
① 土地利用制限	14
② 土地利用の動向	18
③ 都市的未利用地の状況	21
④ 開発の動向	23
⑤ 空家の状況	28
(3) 都市交通	29
① 交通行動の動向	29
② 公共交通の動向	31
③ 幹線道路網	34
④ 交通量	34
(4) 経済活動	36
① 農業の動向	36
② 商業の動向	37
③ 工業の動向	38
④ 観光の動向	39
(5) 財政	40
① 歳入	40
② 歳出	41
③ 財政状況	42
(6) 地価	43
(7) 災害	45

① 地震	45
② 水害	46
③ 土砂災害	46
④ 避難所等	46
(8) 都市機能	48
① 公共施設	48
② 都市機能施設の配置状況	50
(9) 都市施設	51
① 都市計画道路の整備状況	51
② 公園の整備状況	52
③ 公共下水道整備の整備状況	54
(10) 文化財	57
2. まとめ（再掲）	59

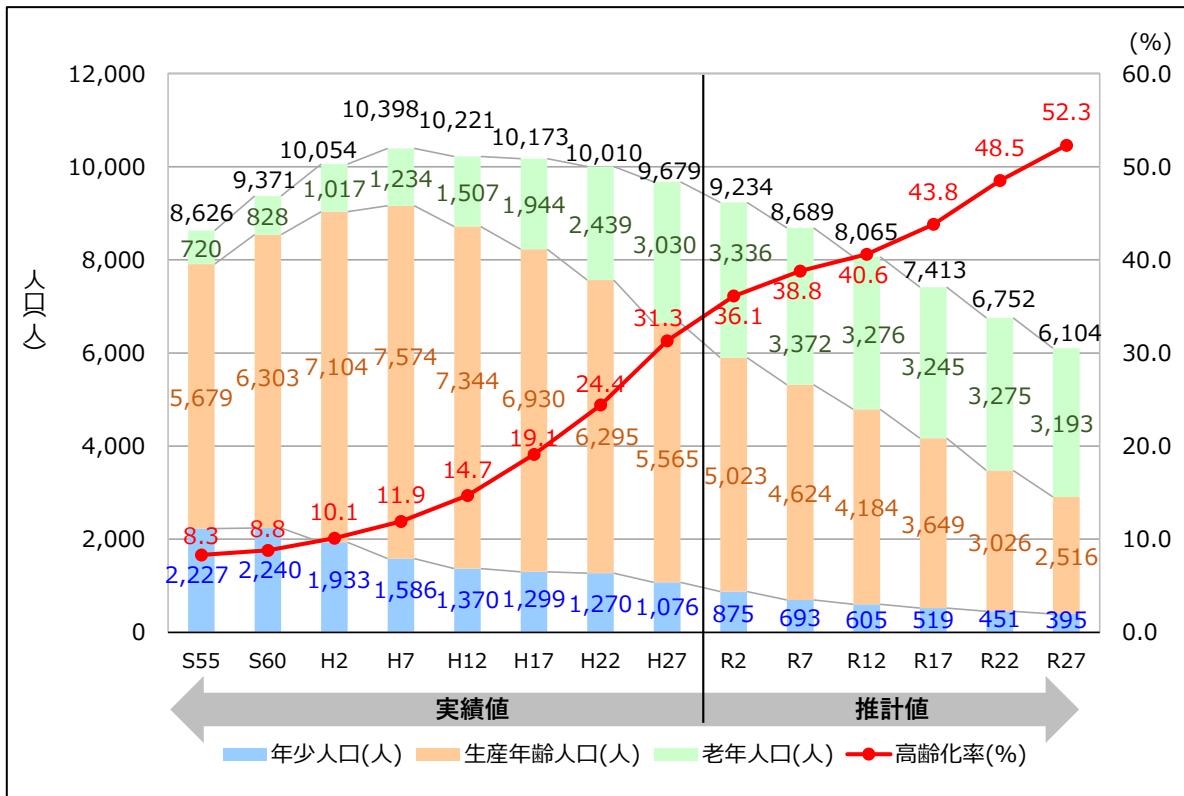
1. 都市の現況・動向把握

(1) 人口・世帯数

① 人口

- 人口は、平成7（1995）年をピークに減少傾向にある
- 人口の将来見通しは、更なる少子高齢化の進展が予想される

- 中井町（以下、本町）の昭和55（1980）年以降の人口の推移をみると、平成7（1995）年の10,398人をピークにゆるやかな減少に転じ、平成27（2015）年では9,679人となっています。
- 同様に年齢3区分別の推移をみると、年少人口（0～14歳）は昭和60（1985）年の2,240人をピークに、生産年齢人口（15～64歳）は平成7（1995）年の7,574人をピークに減少に転じています。一方、老年人口（65歳以上）は、一貫した増加傾向となっており、高齢化率は昭和55（1980）年の8.3%から平成27（2015）年の31.3%へと約20%上昇し、急速に高齢化が進展しています。
- 人口の将来見通しは、令和7（2025）年までは年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加という傾向で推移するものの、令和12（2030）年には老年人口自体も減少に転じるなど、人口規模の維持・回復が難しい局面を迎えることが予想されています。



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（平成30年）

図 総人口・人口増加率の推移

② 世帯

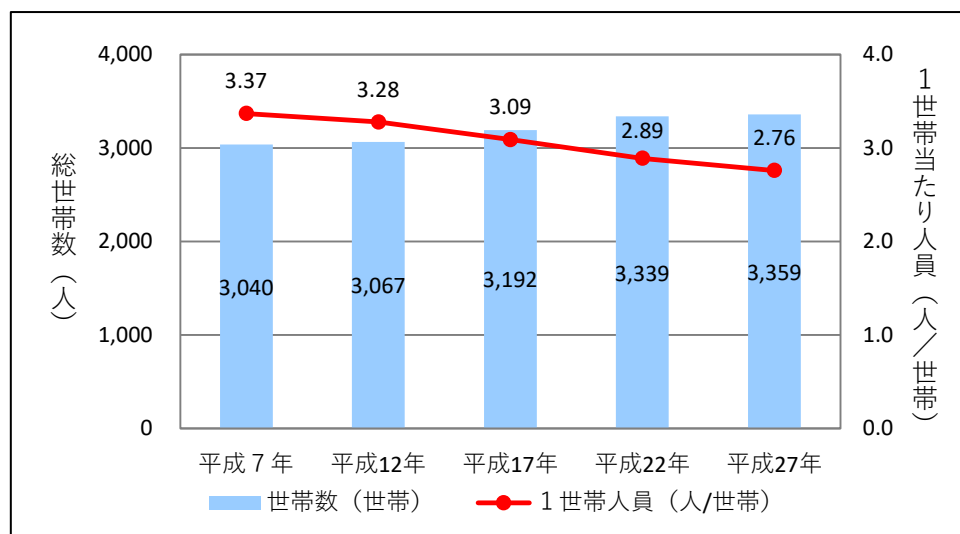
- 世帯数は増加傾向にある一方で、1世帯当たり人員は縮小傾向にある
- 高齢夫婦世帯と単身高齢者世帯は増加傾向にある

- 人口がピークを迎えた平成7（1995）年以降の世帯数の推移をみると、人口が減少する一方で、世帯数は増加しており、平成27（2015）年には3,359世帯で、平成7（1995）年から319世帯、10.5%の増加となっています。
- このため、1世帯あたりの人員は、平成7（1995）年の3.37人から平成27（2015）年には2.76人にまで縮小しています。

表 人口・世帯数の推移

年次	総人口(人)	世帯数(世帯)	1世帯人員(人/世帯)
平成7年	10,398	3,040	3.37
平成12年	10,221	3,067	3.28
平成17年	10,173	3,192	3.09
平成22年	10,010	3,339	2.89
平成27年	9,679	3,359	2.76

資料：国勢調査



資料：国勢調査

図 世帯数・1世帯人員の推移

- 前頁と同様に高齢者世帯の推移をみると、平成7（1995）年の142世帯から平成27（2015）年の799世帯まで増加し、総世帯に占める割合も4.7%から23.8%に上昇しています。
- 高齢者世帯の内訳をみると、単身高齢者世帯は、平成7（1995）年の49世帯から平成27（2015）年の265世帯、高齢夫婦世帯は、平成7（1995）年の93世帯から平成27（2015）年の534世帯まで増加し、ともに平成7（1995）年時点の5倍以上となっています。

表 高齢者世帯の推移

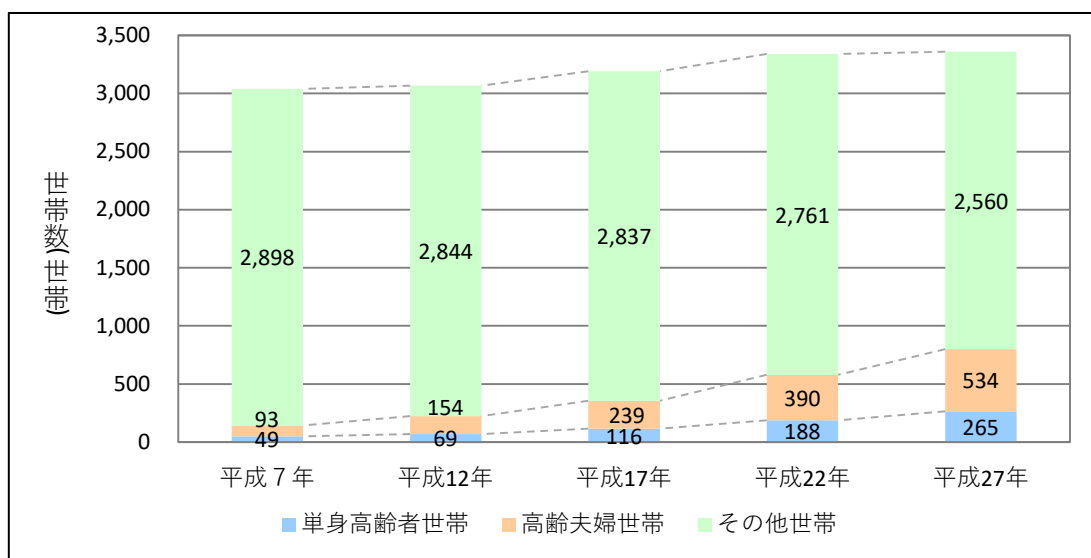
<実数>

年次	総世帯	高齢者世帯			その他世帯
			単身高齢者世帯	高齢夫婦世帯	
平成7年	3,040	142	49	93	2,898
平成12年	3,067	223	69	154	2,844
平成17年	3,192	355	116	239	2,837
平成22年	3,339	578	188	390	2,761
平成27年	3,359	799	265	534	2,560

<構成比>

年次	総世帯	高齢者世帯			その他世帯
			単身高齢者世帯	高齢夫婦世帯	
平成7年	100.0%	4.7%	1.6%	3.1%	95.3%
平成12年	100.0%	7.2%	2.2%	5.0%	92.7%
平成17年	100.0%	11.1%	3.6%	7.5%	88.9%
平成22年	100.0%	17.3%	5.6%	11.7%	82.7%
平成27年	100.0%	23.8%	7.9%	15.9%	76.2%

資料：国勢調査



資料：国勢調査

図 高齢者世帯の推移

③ 人口動態

- 平成 18（2006）年以降は一貫して自然減となっている
- 社会減の要因として高校卒業後の若い世代の町外への転出が多くなっている

- 平成 7（1995）年以降の人口動態をみると、自然増減（出生数と死亡数の差）は、平成 17（2005）年までは自然増もみられますが、平成 18（2006）年以降は一貫して自然減となっています。
- 社会増減（転入数と転出数の差）は、社会減となる年が多くなっています。また、年齢階級別社会増減の推移をみると、高校卒業後の若い世代の町外への転出が多くなっています。

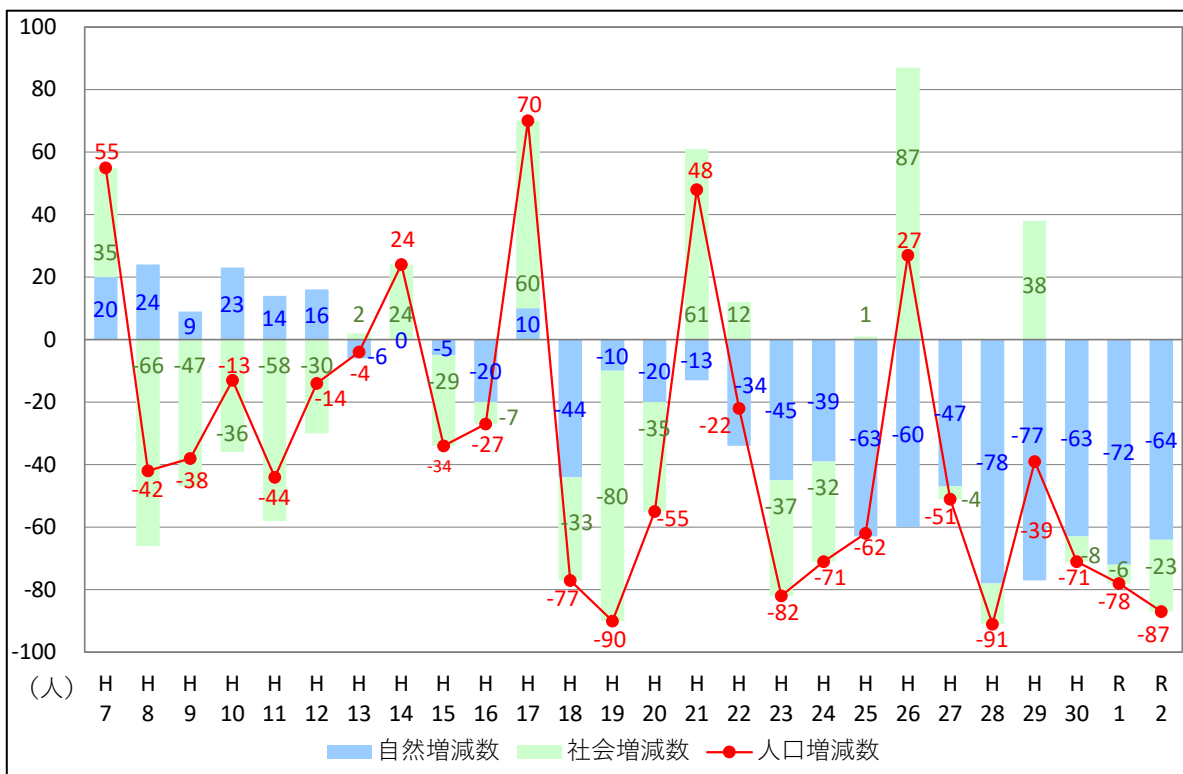
表 人口動態（増減数）の推移

（単位：人）

年次	人口増減数	自然増減数	社会増減数
平成7年	55	20	35
平成8年	-42	24	-66
平成9年	-38	9	-47
平成10年	-13	23	-36
平成11年	-44	14	-58
平成12年	-14	16	-30
平成13年	-4	-6	2
平成14年	24	0	24
平成15年	-34	-5	-29
平成16年	-27	-20	-7
平成17年	70	10	60
平成18年	-77	-44	-33
平成19年	-90	-10	-80

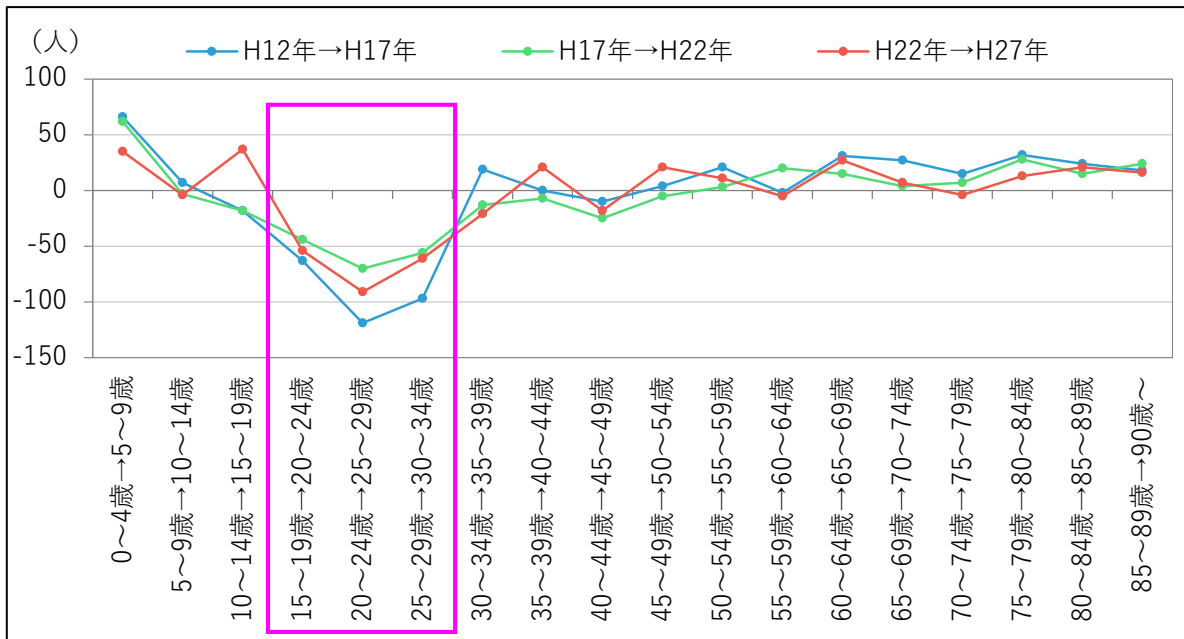
年次	人口増減数	自然増減数	社会増減数
平成20年	-55	-20	-35
平成21年	48	-13	61
平成22年	-22	-34	12
平成23年	-82	-45	-37
平成24年	-71	-39	-32
平成25年	-62	-63	1
平成26年	27	-60	87
平成27年	-51	-47	-4
平成28年	-91	-78	-13
平成29年	-39	-77	38
平成30年	-71	-63	-8
令和元年	-78	-72	-6
令和2年	-87	-64	-23

資料：住民基本台帳



資料：住民基本台帳

図 人口動態（増減数）の推移



資料：RESAS（地域分析システム）、国勢調査

図 年齢階級別社会増減の推移

- 令和2（2020）年における転入・転出の状況をみると、42人の転出超過となっており、秦野市が転入先（50人、20.8%）・転出先（47人、16.7%）ともに最も多くなっています。
- 次いで、転入元は横浜市（20人、8.3%）、平塚市（15人、6.3%）が、転出先は、小田原市（27人・9.6%）、横浜市（21人、7.4%）が多くなっており、近隣市のほか横浜市との転入・転出が多くなっています。

表 転入出の状況（令和2（2020）年）

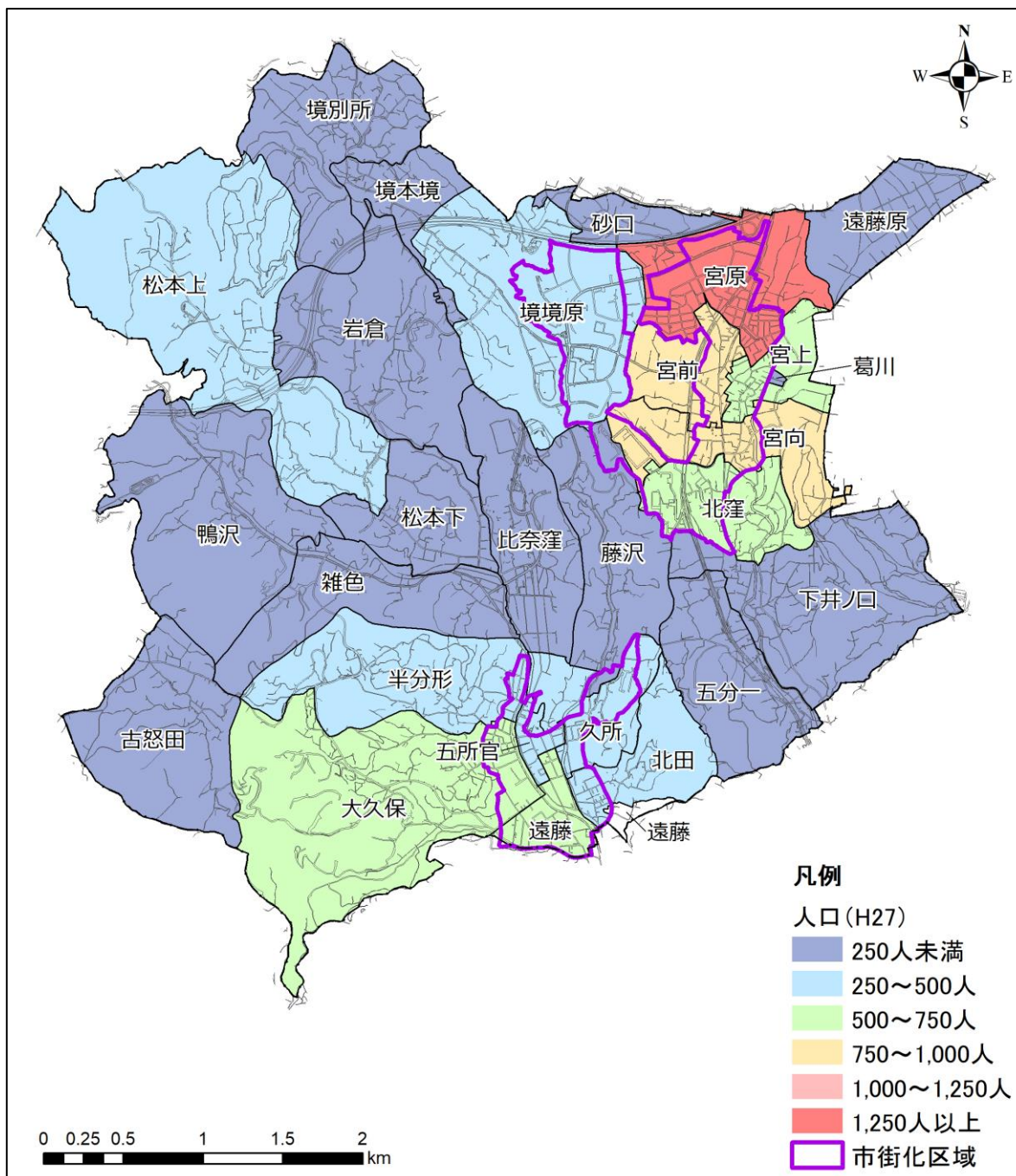
順位	転入			転出		
	転入元	実数(人)	構成比(%)	転出先	実数(人)	構成比(%)
1	秦野市	50	20.8	秦野市	47	16.7
2	横浜市	20	8.3	小田原市	27	9.6
3	平塚市	15	6.3	横浜市	21	7.4
4	相模原市	14	5.8	平塚市	16	5.7
5	神奈川県内その他市町村	76	31.7	神奈川県内その他市町村	100	35.5
6	その他の県	65	27.1	その他の県	71	25.2
	合計	240	100.0	合計	282	100.0

資料：住民基本台帳人口移動報告

④ 字別人口の推移

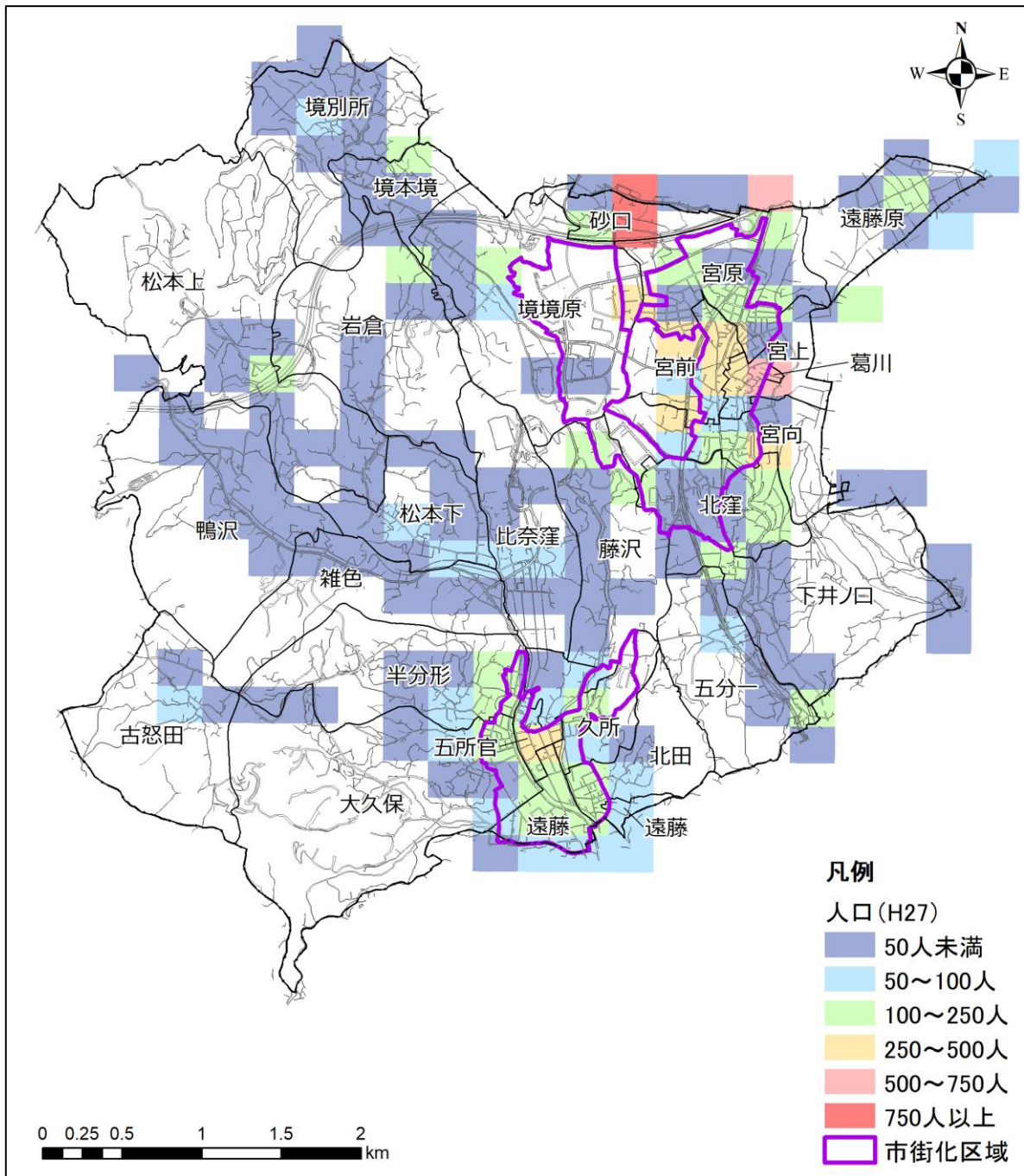
- 秦野中井 IC 周辺での人口集積がみられる
- 郊外での人口減少、高齢化が顕著となっている

- 国勢調査における平成 27（2015）年の字別人口をみると、秦野中井 IC 周辺の市街化区域を含む宮原、宮前、宮向で多くなっています。
- また、250mメッシュ毎の人口をみると、砂口、葛川で多くなっています。



資料：国勢調査

図 字別人口（平成 27（2015）年）



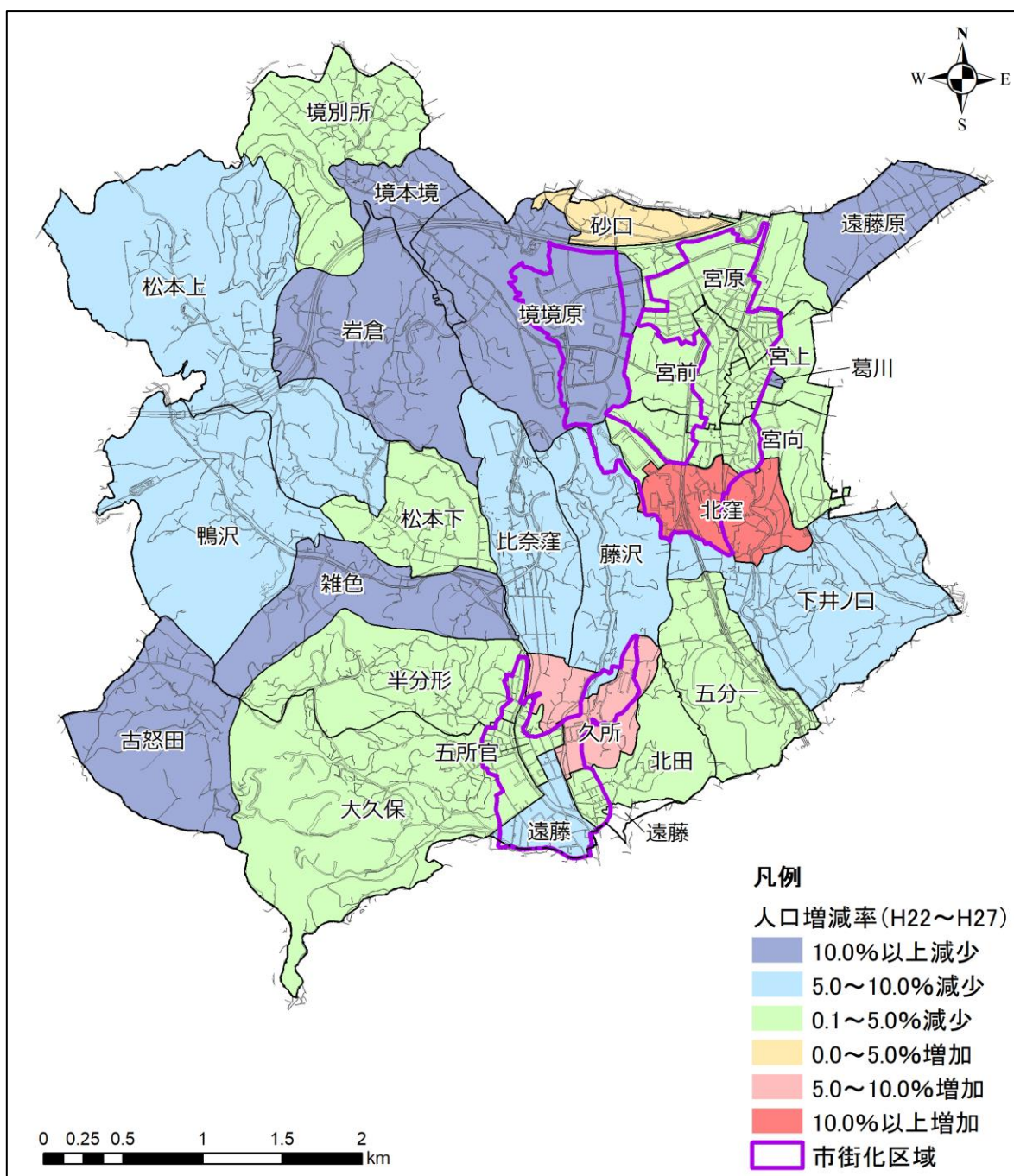
※行政界付近では一部町外の人口も含まれる

資料：国勢調査

図 250mメッシュ人口（平成 27（2015）年）

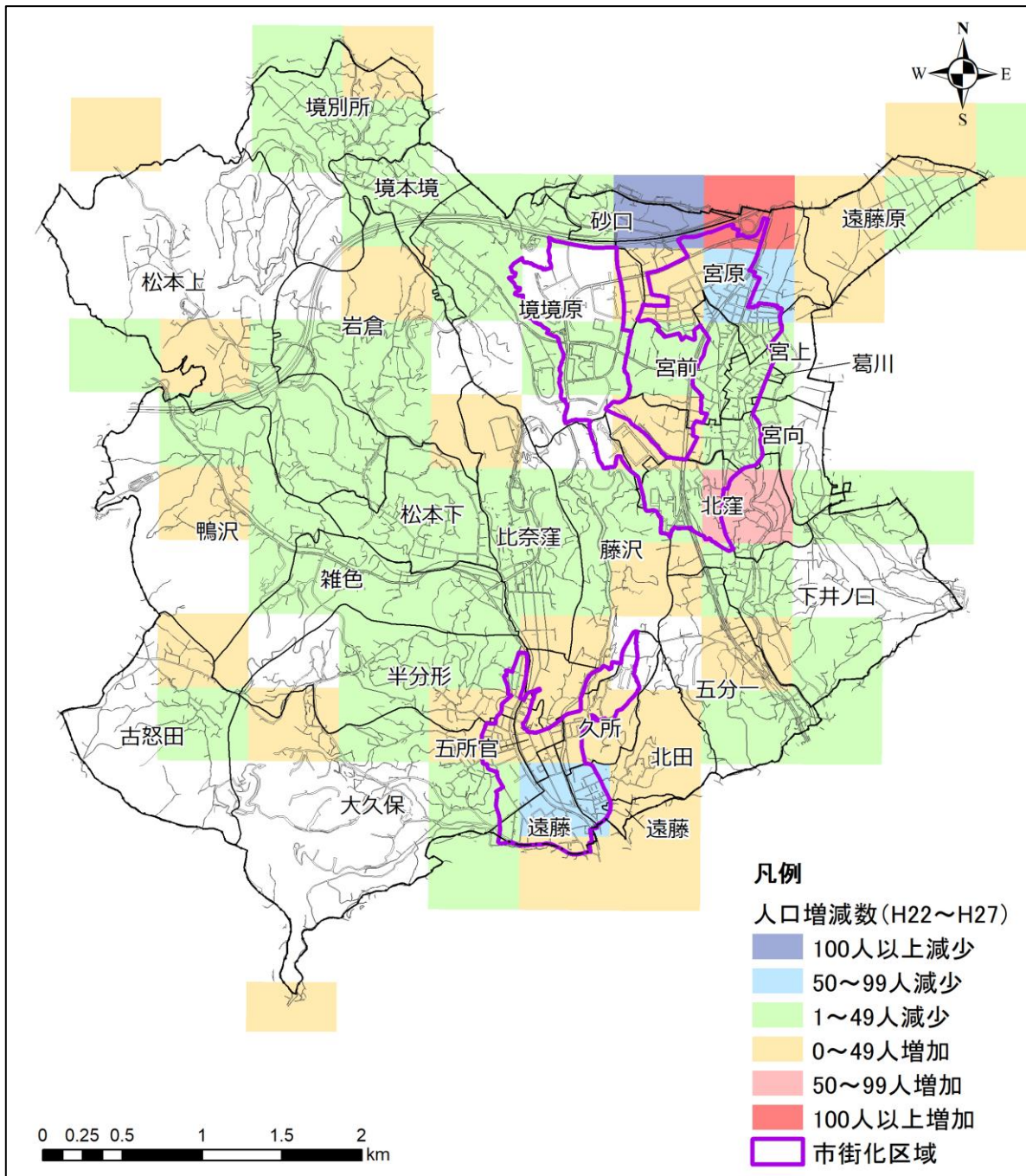
＜人口増減＞

- 平成 22（2010）年から平成 27（2015）年の字別の人口増減率をみると、減少する地区が多い中、北窪と久所と砂口では 5 %以上増加しています。
- また、500mメッシュ毎の人口増減をみると、秦野中井 IC 周辺と北窪で 50 人以上増加している地区がみられる一方で、宮原、遠藤と砂口では 50 人以上減少している地区がみられます。



資料：国勢調査

図 字別人口増減率（平成 22（2010）年～平成 27（2015）年）



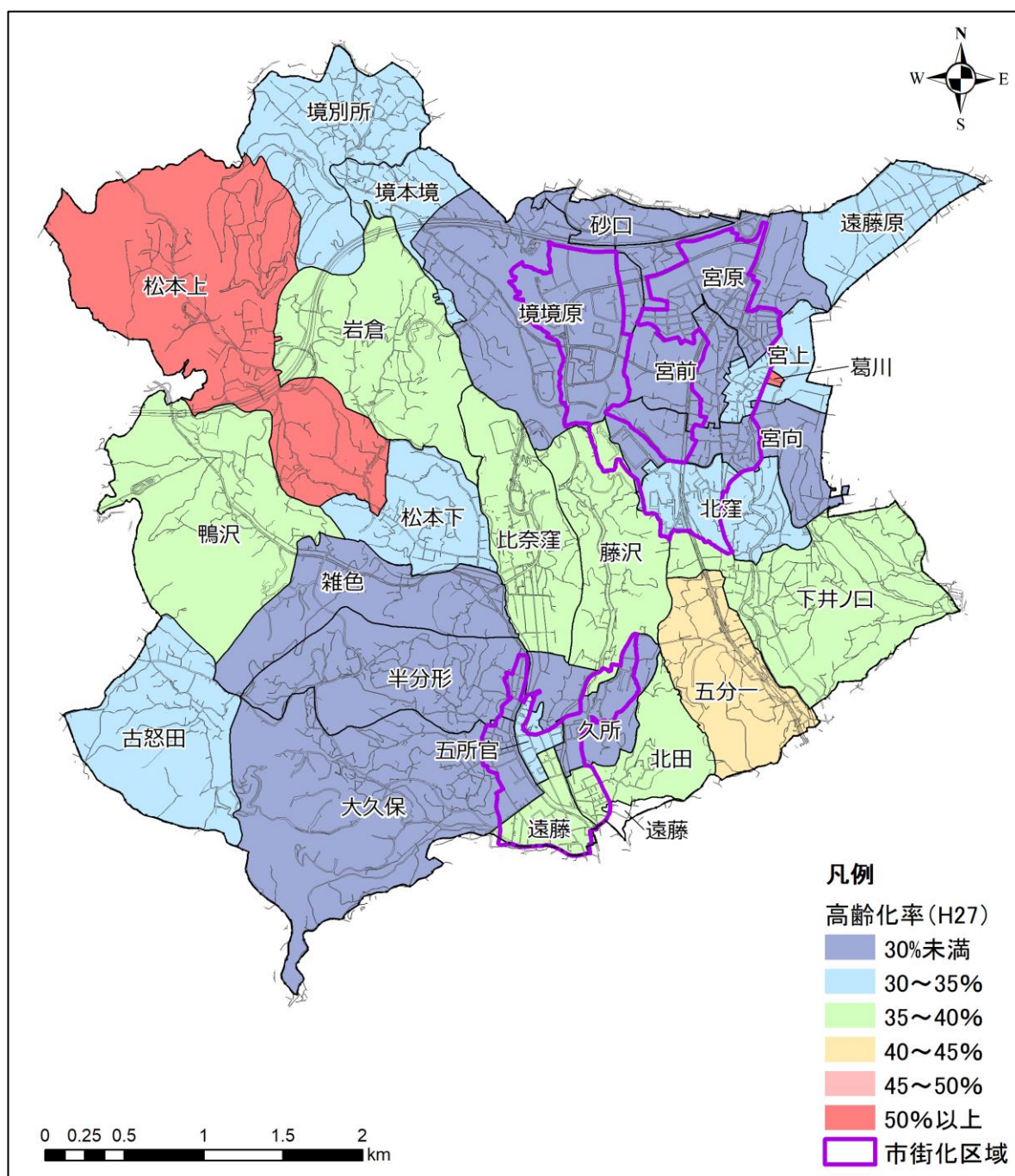
※行政界付近では一部町外の人口も含まれる

資料：国勢調査

図 500mメッシュ人口増減（平成 22（2010）年～平成 27（2015）年）

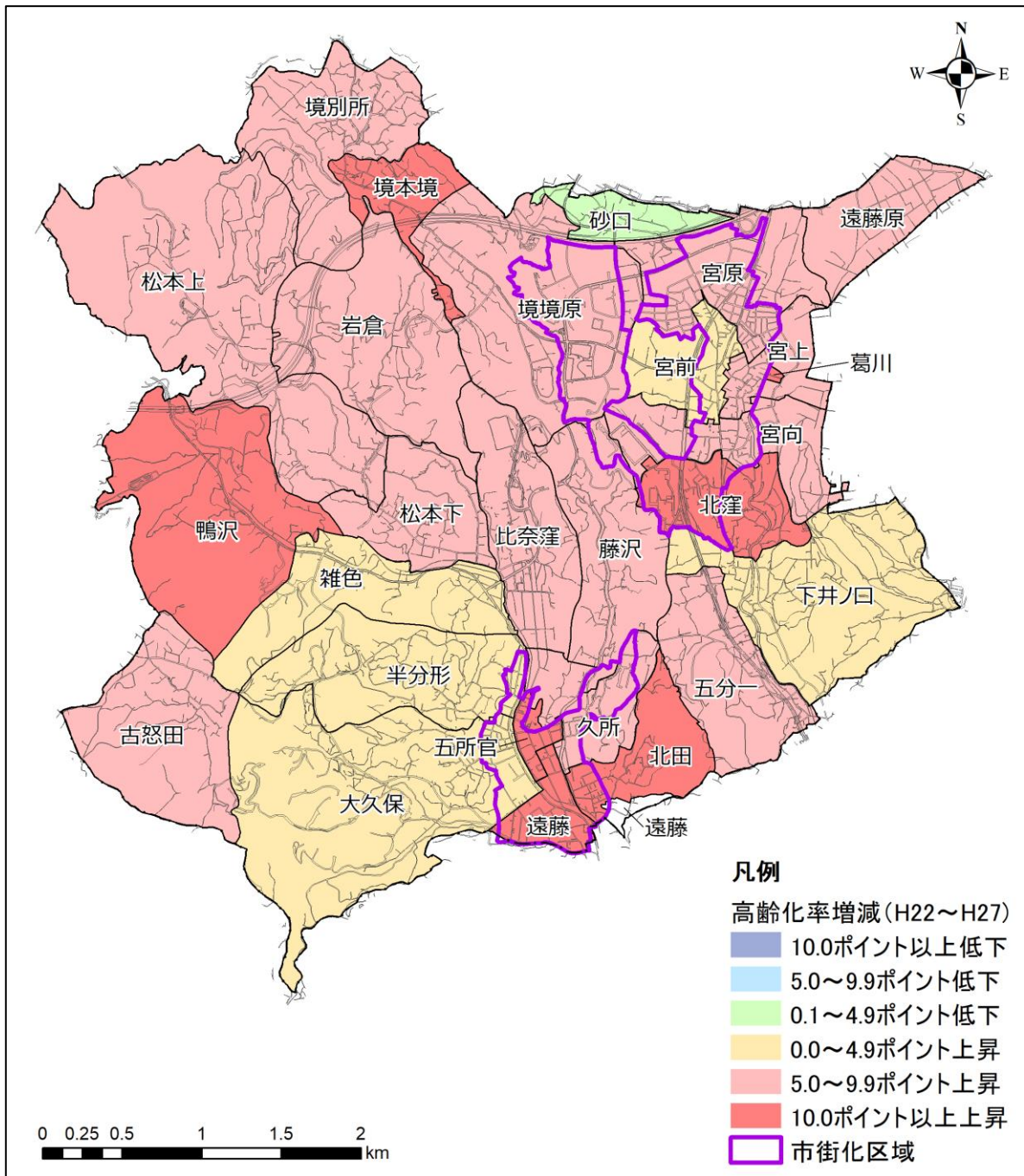
<高齢化率>

- 字別の高齢化率をみると、松本上では高齢化率が 50%以上となっている一方で、市街化区域周辺では 30%未満の地区がみられます。
- 平成 22（2010）年から平成 27（2015）年の字別の高齢化率の増減をみると、砂口以外の全ての地区で高齢化率が上昇しています。



資料：国勢調査

図 字別高齢化率（平成 27（2015）年）



資料：国勢調査

図 字別高齢化率増減（平成 22（2010）年～平成 27（2015）年）

⑤ 通勤・通学流動

- 昼夜間人口比率は、昼間人口が夜間人口を上回る流入超過となっている
- 町外への通勤は、近隣市のほか、横浜市と東京都（23区）が多くなっている

- 平成27（2015）年の通勤・通学に伴う人口の流入・流出数をみると、流入者数が5,500人、流出者数が3,193人で2,307人の流入超過となっています。
- 平成7（1995）年以降の推移をみると、いずれも昼間人口が夜間人口を上回る流入超過となっており、昼夜間人口比率は109.1～127.8で推移していますが、流出者数、流入者数はいずれも減少傾向にあります。

表 昼夜間人口比率及び流入・流出率の推移

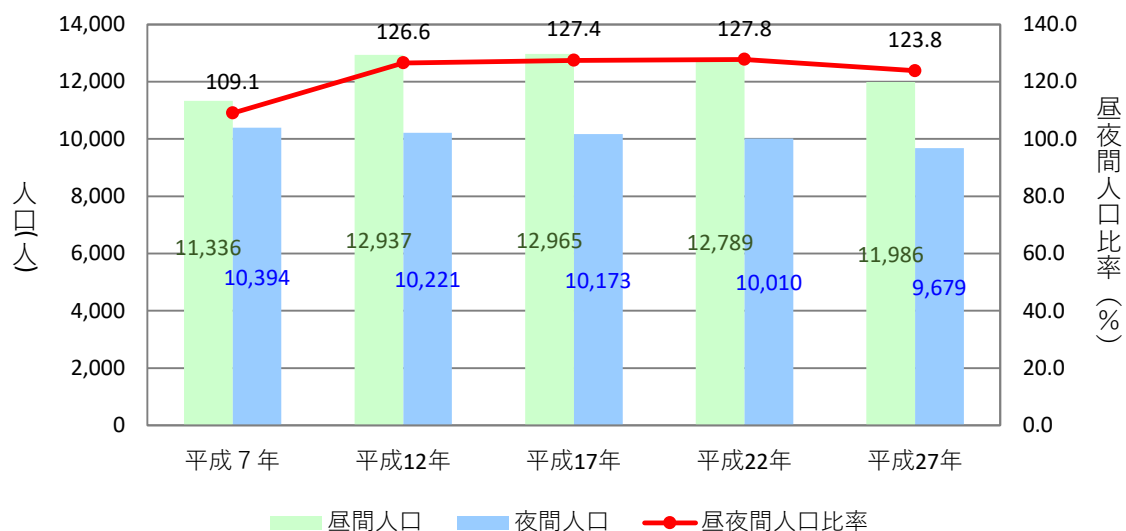
年次	①昼間人口 (人)	②夜間人口 (人)	昼夜間 人口比率(①/②)	③流入者数 (人)	流入率(%) (③/①)	④流出者数 (人)	流出率(%) (④/②)
平成7年	11,336	10,394	109.1	4,971	43.9	4,029	38.8
平成12年	12,937	10,221	126.6	6,519	50.4	3,803	37.2
平成17年	12,965	10,173	127.4	6,410	49.4	3,618	35.6
平成22年	12,789	10,010	127.8	6,137	48.0	3,358	33.5
平成27年	11,986	9,679	123.8	5,500	45.9	3,193	33.0

資料：国勢調査

※昼夜間人口比率：夜間人口に対する昼間人口の割合

※流出率：夜間人口に対する流出者数の割合

※流入率：昼間人口に対する流入者数の割合



資料：国勢調査

図 昼夜間人口比率及び流出・流入率の推移

- 平成 27 (2015) 年の通勤の状況をみると、流入者 (10,344 人) が流出者数 (7,672 人) を上回る 2,672 人の流入超過となっています。
- 町内居住者の通勤先については、町内が 4,852 人で全体の 63.2% を占めており、町外は秦野市 (674 人、8.8%)、小田原市 (416 人、5.4%)、平塚市 (345 人、4.5%) の近隣市のほか、横浜市と東京都 (23 区) への通勤が多くなっています。
- 町内への通勤による流入については、秦野市 (1,867 人、18.0%)、小田原市 (794 人、7.7%)、平塚市 (489 人、4.7%)、二宮町 (419 人、4.1%) と近隣市町が多くなっています。
- 15 歳以上の通学の状況をみると、町内に高等学校や大学がないため、流入は少なく流出が多くなっています。町外の通学先については、小田原市や大磯町などの近隣市町のほか、東京都 (23 区) への通学も多くなっています。

表 流入・流出者数

<平成 27 (2015) 年 通勤>

	流入			流出		
	常住地	実数(人)	構成比(%)	通勤先	実数(人)	構成比(%)
第1位	秦野市	1,867	18.0	秦野市	674	8.8
第2位	小田原市	794	7.7	小田原市	416	5.4
第3位	平塚市	489	4.7	平塚市	345	4.5
第4位	二宮町	419	4.1	横浜市	166	2.2
第5位	南足柄市	212	2.0	東京都特別区部	148	1.9
その他県内	—	1,547	15.0	—	923	12.0
その他県外	—	164	1.6	—	67	0.9
不詳	—	0	0.0	—	81	1.1
中井町内	—	4,852	46.9	—	4,852	63.2
合計	—	10,344	100.0	—	7,672	100.0

資料：国勢調査

<平成 27 (2015) 年 通学 (15 歳以上) >

	流入			流出		
	常住地	実数(人)	構成比(%)	通学先	実数(人)	構成比(%)
第1位	小田原市	4	66.7	小田原市	76	7.9
第2位	伊勢原市	1	16.7	大磯町	62	6.4
第3位	二宮町	1	16.7	秦野市	47	4.9
第4位	—	—	—	東京都特別区部	36	3.7
第5位	—	—	—	平塚市	30	3.1
その他県内	—	—	—	—	155	16.0
その他県外	—	—	—	—	37	3.8
不詳	—	—	—	—	10	1.0
中井町内	—	—	—	—	514	53.2
合計	—	6	100.0	—	967	100.0

※通勤先及び通学先の常住地は、上位 5 位までを表示

資料：国勢調査

(2) 土地利用

① 土地利用制限

- 市街化区域は、町域の約 1 割で、工業系用途地域が過半を占めている
- 地区計画は、4 地区で策定されている

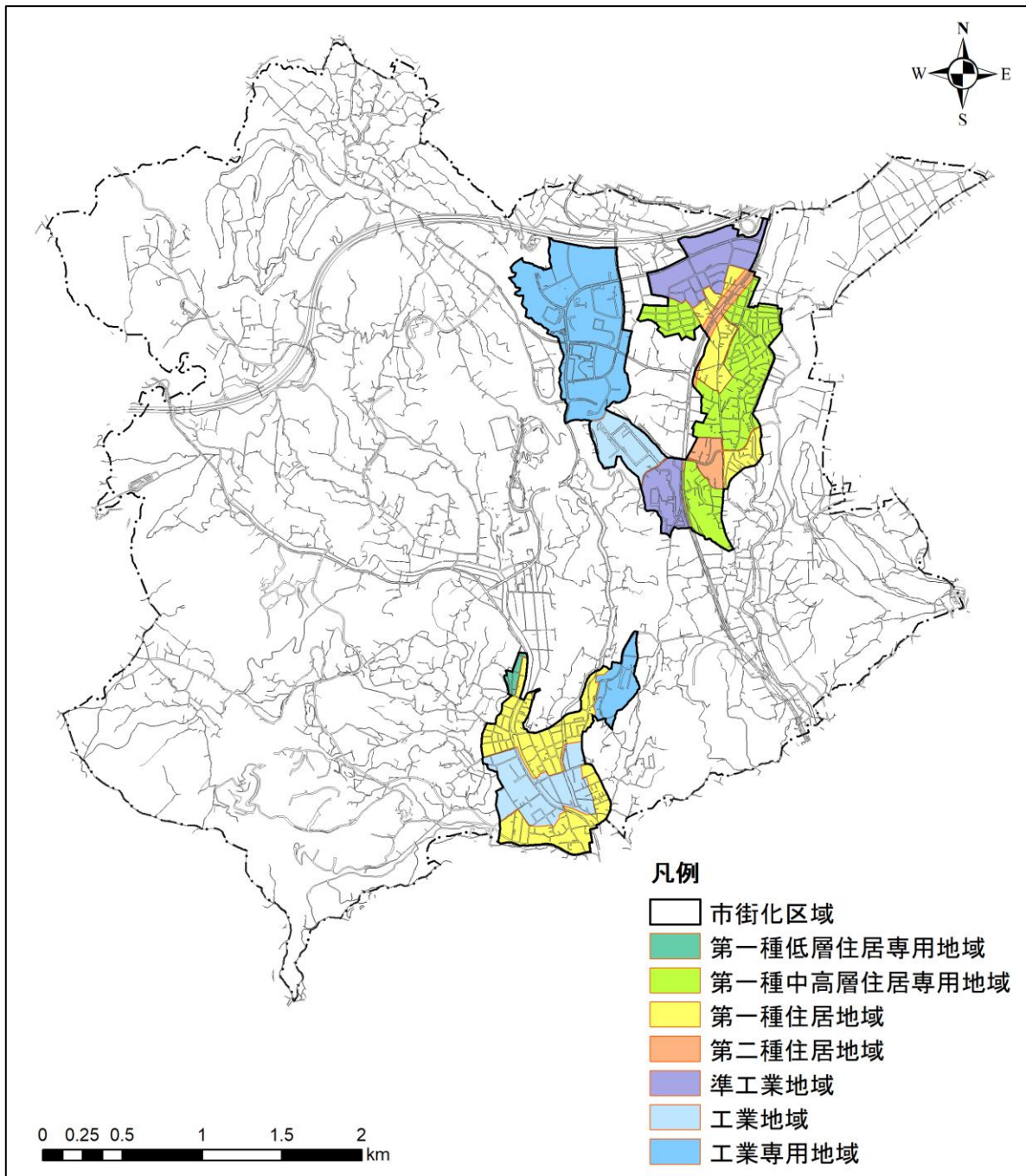
<区域区分・用途地域>

- 本町は、全域（1,999ha）が都市計画区域に指定され、市街化区域が 225ha（11.2%）、市街化調整区域が 1,774ha（88.8%）となっており、町の北部と南部にコンパクトな市街地が形成されています。
- 用途地域の構成比をみると、工業専用地域が 27.6%（62ha）と最も広く指定されており、工業系用途地域が 55.2%（124ha）と過半を占めています。

表 用途地域等の指定状況

区分	面積 (ha)	構成比 (%)
都市計画区域(中井町分)	1,999	100.0
市街化区域	225	11.2
第一種低層住居専用地域	1.6	0.7
第一種中高層住居専用地域	45	20.0
第一種住居地域	45	20.0
第二種住居地域	9	4.0
準工業地域	29	12.9
工業地域	33	14.7
工業専用地域	62	27.6
市街化調整区域	1,774	88.8

資料：都市計画図



資料：都市計画決定データ

図 用途地域の都市計画決定状況

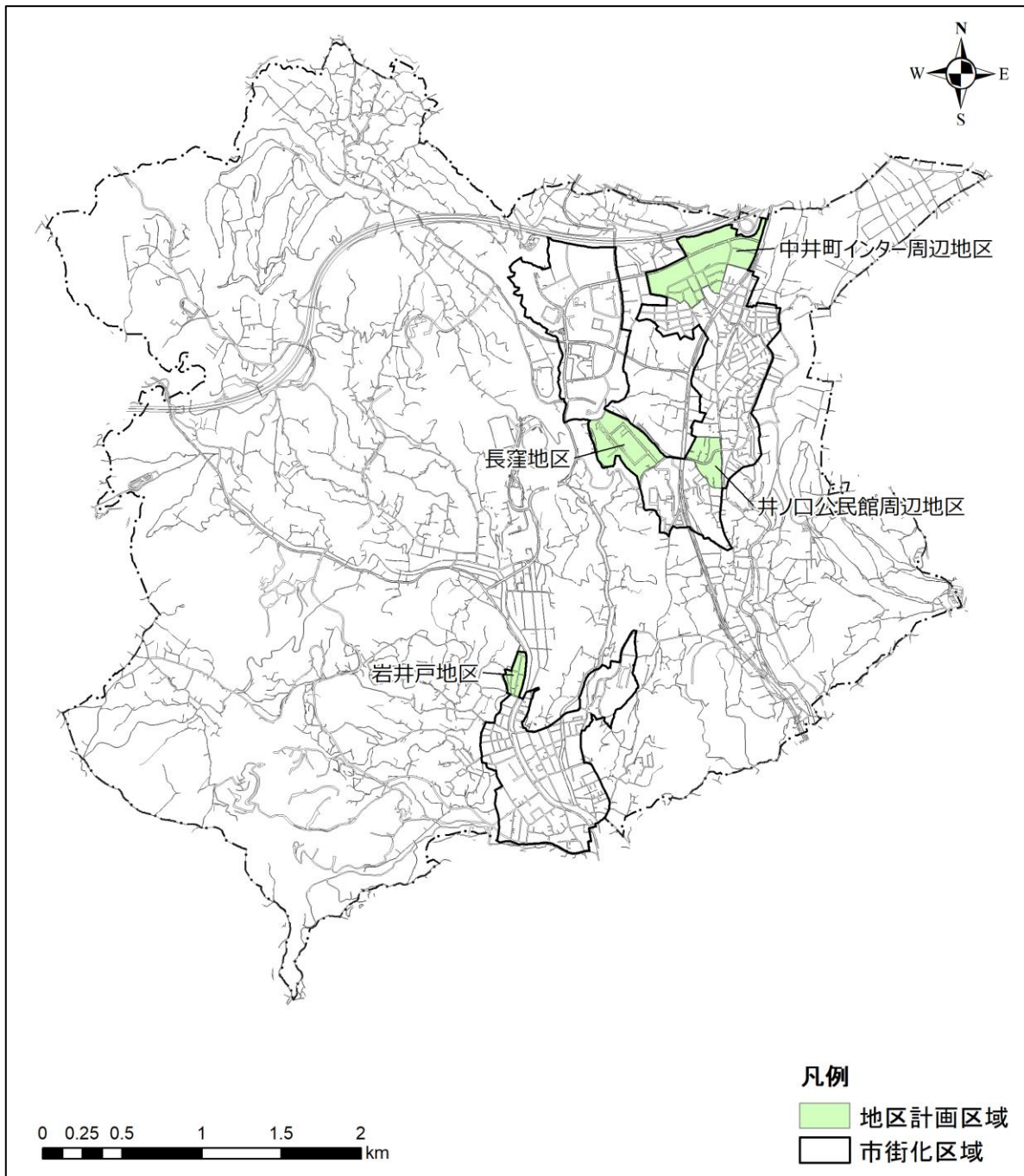
<地区計画>

- 地区計画は、4 地区で策定されており、地区の特性に応じた良好な市街地環境の形成が積極的に進められています。

表 地区計画

地区	面積 (ha)	地区計画の目標	地区整備計画									
			地区施設		建築物等に関する事項							
			道路	公共空地等	用途の制限	建ぺい率の最高限度	容積率の最高限度	敷地面積の最低限度	高さの最高限度	壁面の位置	柵の構造 垣又は	形態又は意匠
中井町周辺地区	19.6	本地区は、東名高速道路秦野中井インターチェンジに隣接しており、主として流通・工業施設等の用地として土地利用を図るため、組合施行の土地区画整理事業により、道路・公園等の公共施設及び宅地の整備を行う地区である。この基盤整備の効果を維持発展させるとともに、用途の混在による弊害の発生防止に努め、町の玄関口としてふさわしい、緑豊かな安全でゆとりとうるおいのある町づくりを行うことを目標とする。	○	—	○	—	—	○	○	○	○	○
長窪地区	11.3	本地区は、東名高速道路秦野中井インターチェンジから南に約1.5kmに位置し、都市計画道路「新南金目中井線」に隣接している地区で、開発行為により工業地としての整備が行われる地区である。 本地区からインターチェンジにかけての「グリーンテクなかい」地区では、区画整理事業により工業地としての基盤整備が展開されており、今後本地区と一体となって一層の発展が見込まれている。 このため、地区計画を策定することにより、工業地域として適正かつ合理的な土地利用を図るとともに、緑地を豊富に配慮し、良好な市街地環境の形成を図ることを目標とする。	—	○	○	—	—	—	—	○	○	—
岩井戸地区	2.5	本地区は、JR東海道本線二宮駅から北西へ約6.4 km、東名高速道路秦野中井インターチェンジから南西へ約3.5 kmに位置し、優良な自然環境に囲まれた良好な市街地を形成するため、組合施行の土地区画整理事業により計画的に都市基盤の整備を行っている地区である。 このため、地区計画を策定することにより、土地の有効利用及び建築物等の計画的誘導を行い、緑豊かな魅力ある街づくりを進めることを目標とする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
井ノ口公民館周辺地区	5.1	本地区は、JR 東海道本線二宮駅から北へ 5.5 km、東名高速道路秦野中井インターチェンジから南へ約1.9 kmに位置し、井ノ口公民館をはじめとする公共公益施設を中心に住宅地が整備されていることから、井ノ口地区の地域拠点として位置付け、都市機能の集積を推進する地区である。 また、近隣には里やまの風景にも囲まれているなど、潤いのある環境にも恵まれている。 このような地区の特性を活かし、周辺の環境と調和した良好な居住環境の維持・保全をしながらも、都市機能の向上を推進することを目的とする。	—	—	○	—	—	○	○	○	○	○

資料：中井町HP



資料：都市計画決定データ

図 地区計画の都市計画決定状況

② 土地利用の動向

■土地利用は、自然的土地利用が約 7 割を占めている

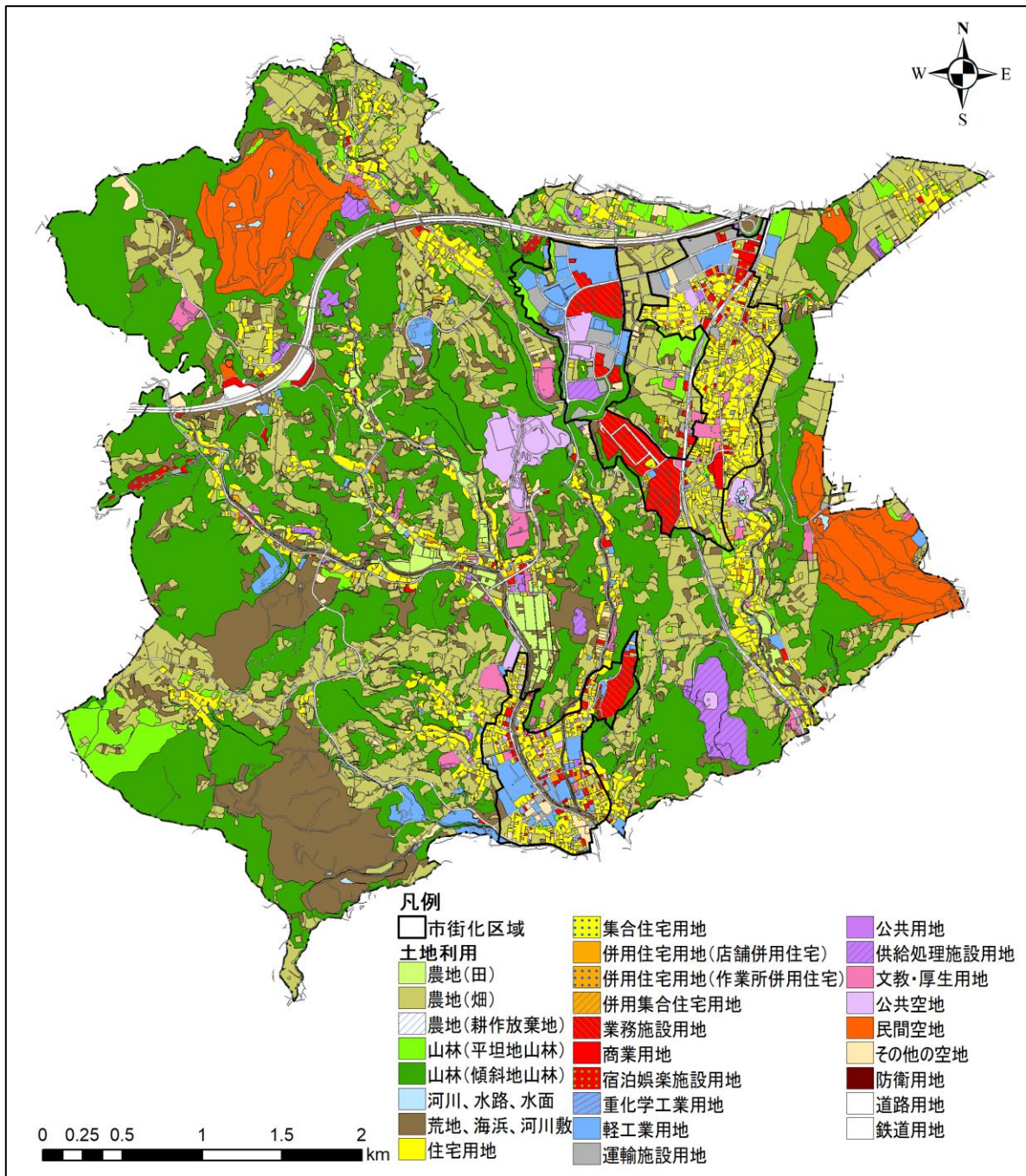
■土地利用の推移をみると、住宅用地、商業・業務用地や工業用地などが増加している

- 平成 28（2016）年の土地利用は、全体の約 7 割（1,396.1ha）を自然的土地利用が占める一方で、都市的土地利用は約 3 割（605.9ha）にとどまっています。
- 土地利用の構成比をみると、自然的土地利用は山林が 33.7%（674.8ha）で最も多く、次いで農地が 23.9%（478.5ha）、都市的土地利用は、ゴルフ場等を含む空地が 7.2%（143.6ha）と最も多く、次いで住宅用地が 6.8%（136.6ha）となっています。
- 平成 23（2011）年から平成 28（2016）年の土地利用の推移をみると、26.2ha が自然的土地利用から都市的土地利用へと転換されています。
- 同様に、区域区分別の土地利用の推移をみると、市街化区域においては、その他空地や農地などが減少する一方で、住宅用地、商業・業務用地や工業用地などの宅地が増加しています。
- 市街化調整区域においては、山林や農地が減少し、公共公益用地が増加していますが、これはメガソーラー施設の建設が要因となっているものと考えられます。

表 土地利用現況の増減（平成 23（2011）年→平成 28（2016）年）

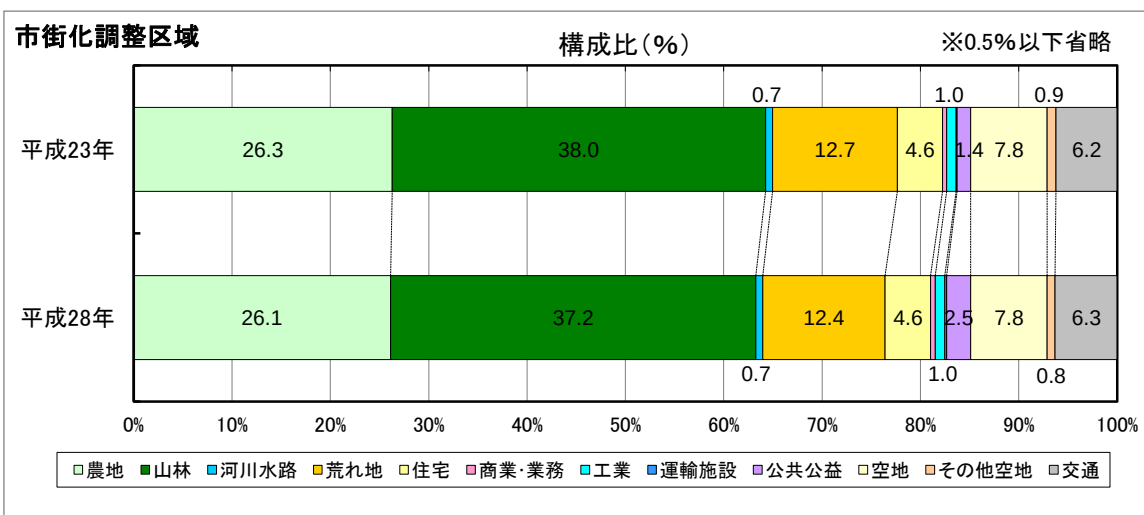
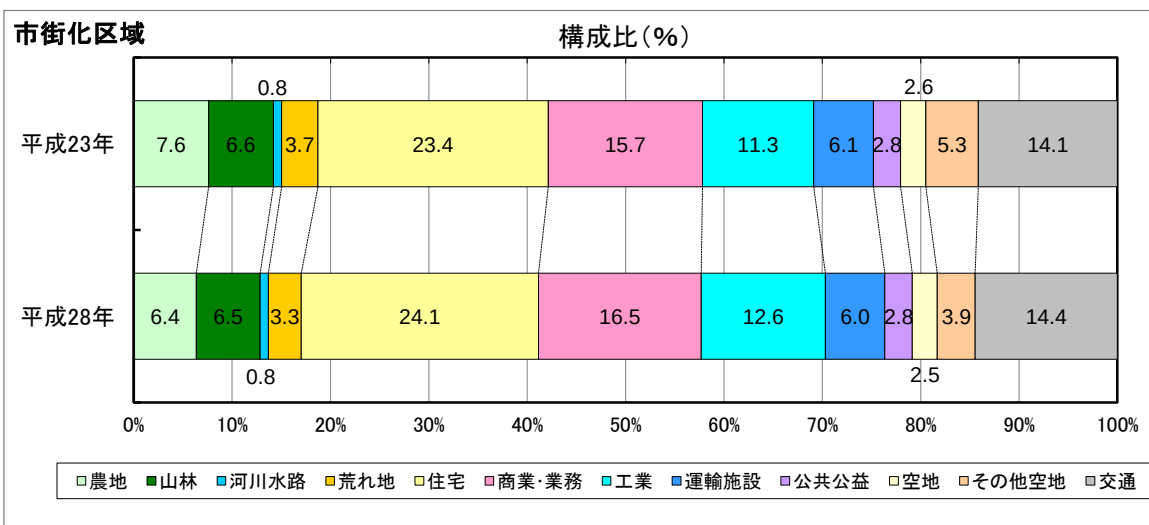
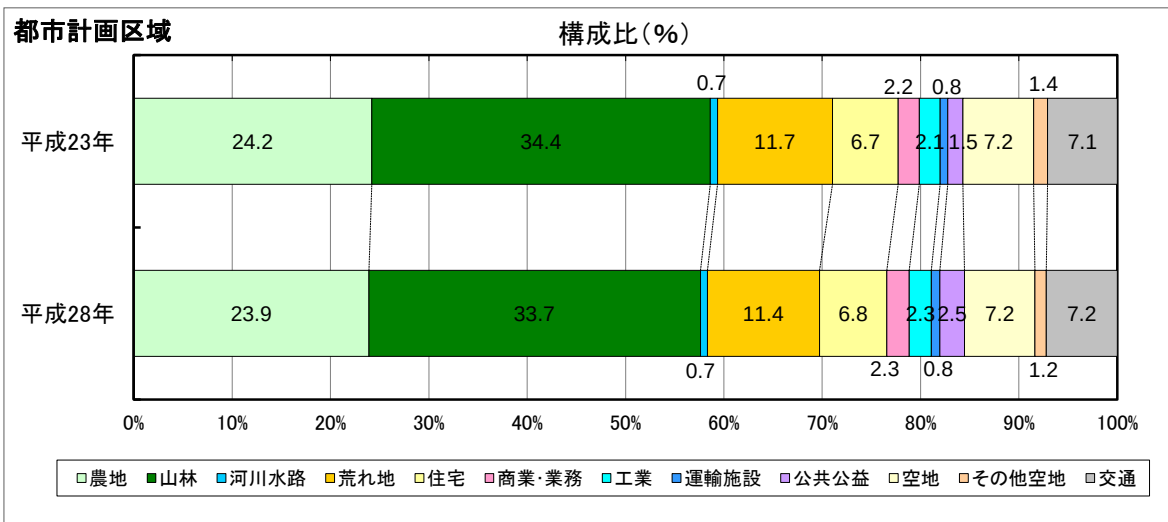
利用区分		平成23年		平成28年		面積増減 (ha)	増加率 (%)
		面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)		
自然的 土地利用	農地	484.2	24.2	478.5	23.9	▲ 5.7	▲ 1.2
	山林	689.3	34.4	674.8	33.7	▲ 14.5	▲ 2.1
	河川・水面・水路	14.5	0.7	14.4	0.7	▲ 0.1	▲ 0.7
	荒地・海浜・河川敷	234.3	11.7	228.4	11.4	▲ 5.9	▲ 2.5
	計	1,422.3	71.0	1,396.1	69.7	▲ 26.2	▲ 1.8
都市的 土地利用	住宅用地	133.8	6.7	136.6	6.8	2.8	2.1
	商業・業務用地	43.2	2.2	45.7	2.3	2.5	5.8
	工業用地	42.3	2.1	45.4	2.3	3.1	7.3
	運輸施設用地	15.2	0.8	16.8	0.8	1.6	10.5
	公共公益用地	31.0	1.5	50.1	2.5	19.1	61.6
	空地	144.1	7.2	143.6	7.2	▲ 0.5	▲ 0.3
	その他空地	28.1	1.4	23.2	1.2	▲ 4.9	▲ 17.4
	交通用地	142.0	7.1	144.5	7.2	2.5	1.8
計		579.7	29.0	605.9	30.3	26.2	4.5
合計		2,002.0	100.0	2,002.0	100.0	0.0	0.0

資料：都市計画基礎調査



資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

図 土地利用現況（平成 28（2016）年）



資料：都市計画基礎調査

図 土地利用現況の構成比の推移（区域区分別）

③ 都市的未利用地の状況

■市街化区域内における都市的未利用地は、減少傾向にある

- 平成 28 (2016) 年の市街化区域内における都市的未利用地は、農地が 14.3ha、平坦地山林が 3.8ha、その他空地が 8.7ha の合計 26.8ha で、市街化区域全体 (225ha) の 12.0%を占めています。
- 平成 23 (2011) 年から平成 28 (2016) 年の推移をみると、農地、平坦地山林、その他空地の全てで減少しています。その内、最も構成比が変化したのはその他空地で、市街化区域内に占める構成比が 1.4 ポイント減少しています。

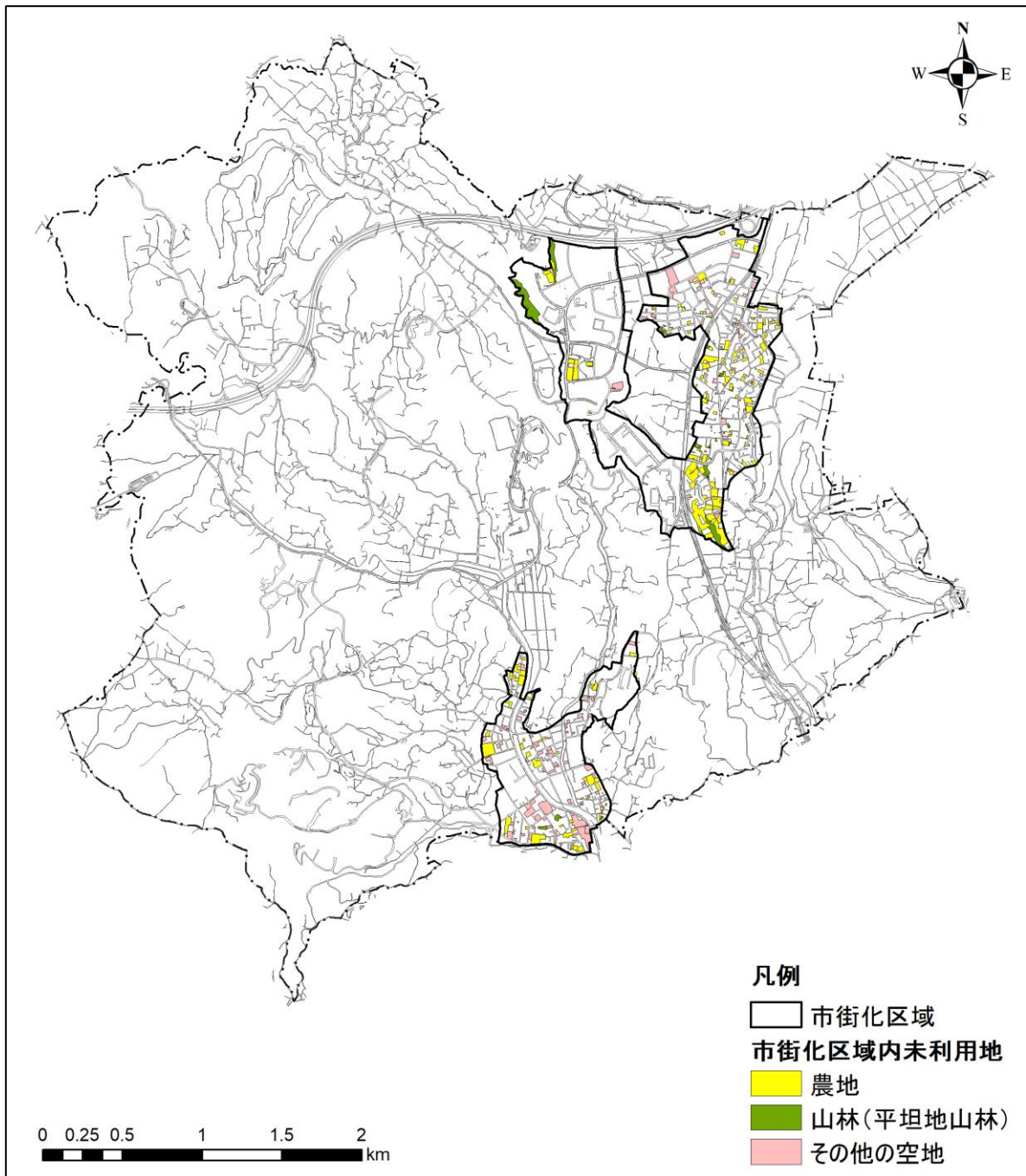
表 市街化区域内農地・未利用地の推移 (平成 23 (2011) 年→平成 28 (2016) 年)

区分	平成23年		平成28年	
	面積 (ha)	市街化区域内に対する割合 (%)	面積 (ha)	市街化区域内に対する割合 (%)
農地	17.1	7.6	14.3	6.4
平坦地山林	4.1	1.8	3.8	1.7
その他空地	12.0	5.3	8.7	3.9
計	33.2	14.7	26.8	12.0

※その他空地：未建築宅地、用途改变中の土地、屋外駐車場、資材置き場 等

※市街化区域面積：225ha

資料：都市計画基礎調査



資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

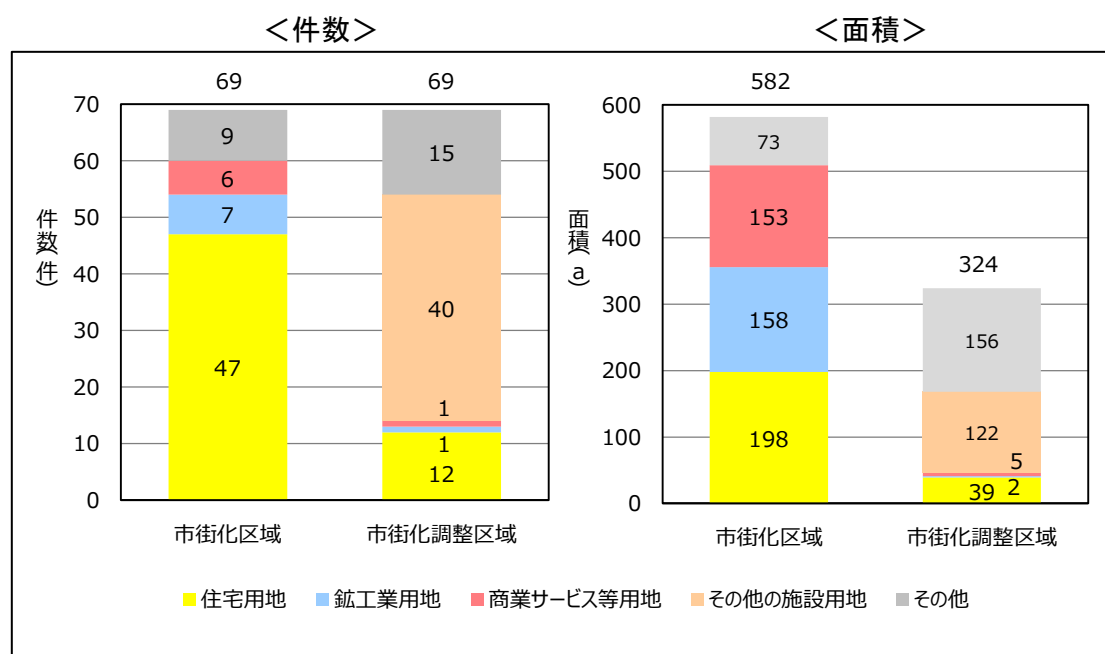
図 都市的未利用地の現況（平成 28（2016）年）

④ 開発の動向

- 農地転用は、年間 30 件前後で推移している
- 建築確認受付件数は、大部分が専用住宅で減少傾向にある
- 市街地開発事業は、組合施行による土地区画整理事業が 7 箇所完了している

<農地転用>

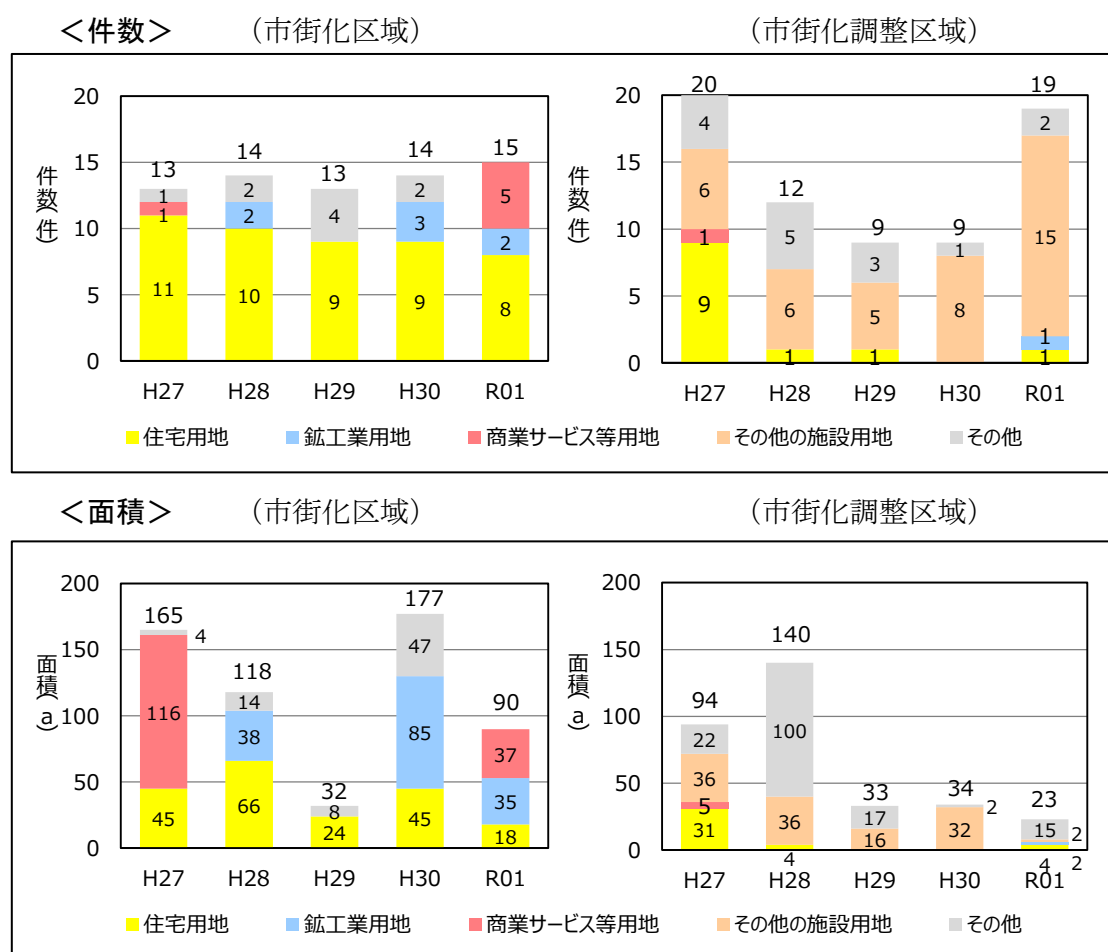
- 平成 27 (2015) 年から令和元 (2019) 年の 5 年間の農地転用状況を区域区別にみると、市街化区域では 69 件／582a、市街化調整区域では 69 件／324a となっており、件数は同じものの、面積は市街化区域で広がっています。
- 転用用途を区域区別にみると、市街化区域では件数／面積ともに住宅用地への転用が最も多く、5 年間で 47 件／198a となっています。一方、市街化調整区域では、件数はその他の施設用地への転用が最も多く、5 年間で 40 件、面積はその他への転用が最も多く、5 年間で 15 件／156a となっています。



資料：中井町統計書（令和 2 年版）

図 区域区別・転用用途別農地転用の累計（平成 27（2015）～令和元（2019）年）

- 転用件数の推移をみると、市街化区域では毎年概ね 14 件前後で推移しています。一方、市街化調整区域では平成 27（2015）年以降減少傾向にありましたが、令和元（2019）年に再び増加に転じました。



資料：中井町統計書（令和 2 年版）

図 区域区分別・転用用途別農地転用の推移

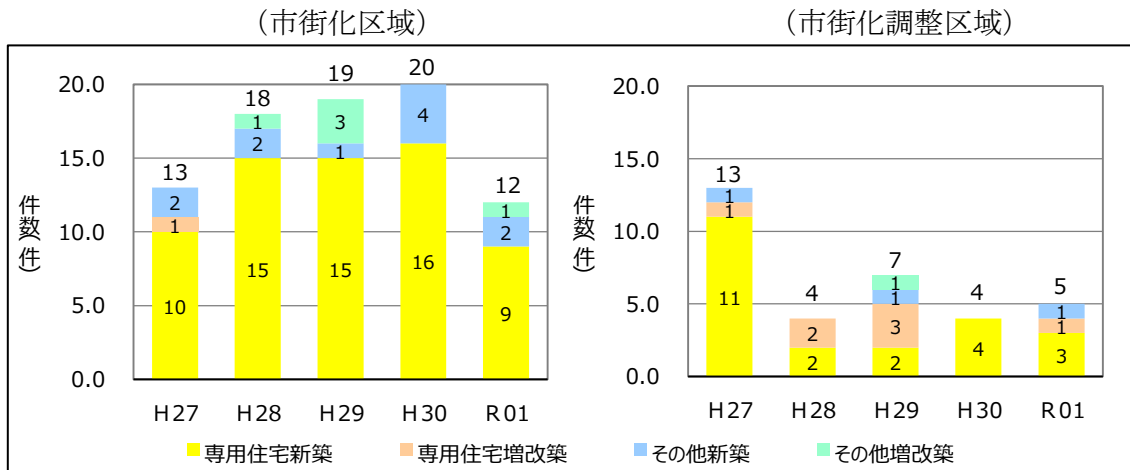
＜建築動向＞

- 平成 27（2015）年度から令和元（2019）年度の 5 年間の建築確認受付件数をみると、市街化区域、市街化調整区域ともに、大部分が専用住宅に関する受付となっています。
- 受付件数の推移をみると、市街化区域では平成 27（2015）年度以降、増加傾向にありましたが、平成 30（2018）年度をピークに減少に転じています。一方、市街化調整区域では、平成 27（2015）年度は 13 件（新築・増改築）となっていたのですが、平成 28（2016）年度以降は概ね 5 件前後で推移しています。

表 建築確認受付件数の推移

年度	総数 (件)	市街化区域(件)				市街化調整区域(件)			
		専用住宅		その他		専用住宅		その他	
		新築	増改築	新築	増改築	新築	増改築	新築	増改築
平成27年度	26	10	1	2	0	11	1	1	0
平成28年度	22	15	0	2	1	2	2	0	0
平成29年度	26	15	0	1	3	2	3	1	1
平成30年度	24	16	0	4	0	4	0	0	0
令和元年度	17	9	0	2	1	3	1	1	0

資料：中井町統計書（令和 2 年版）



資料：中井町統計書（令和 2 年版）

図 建築確認受付件数の推移

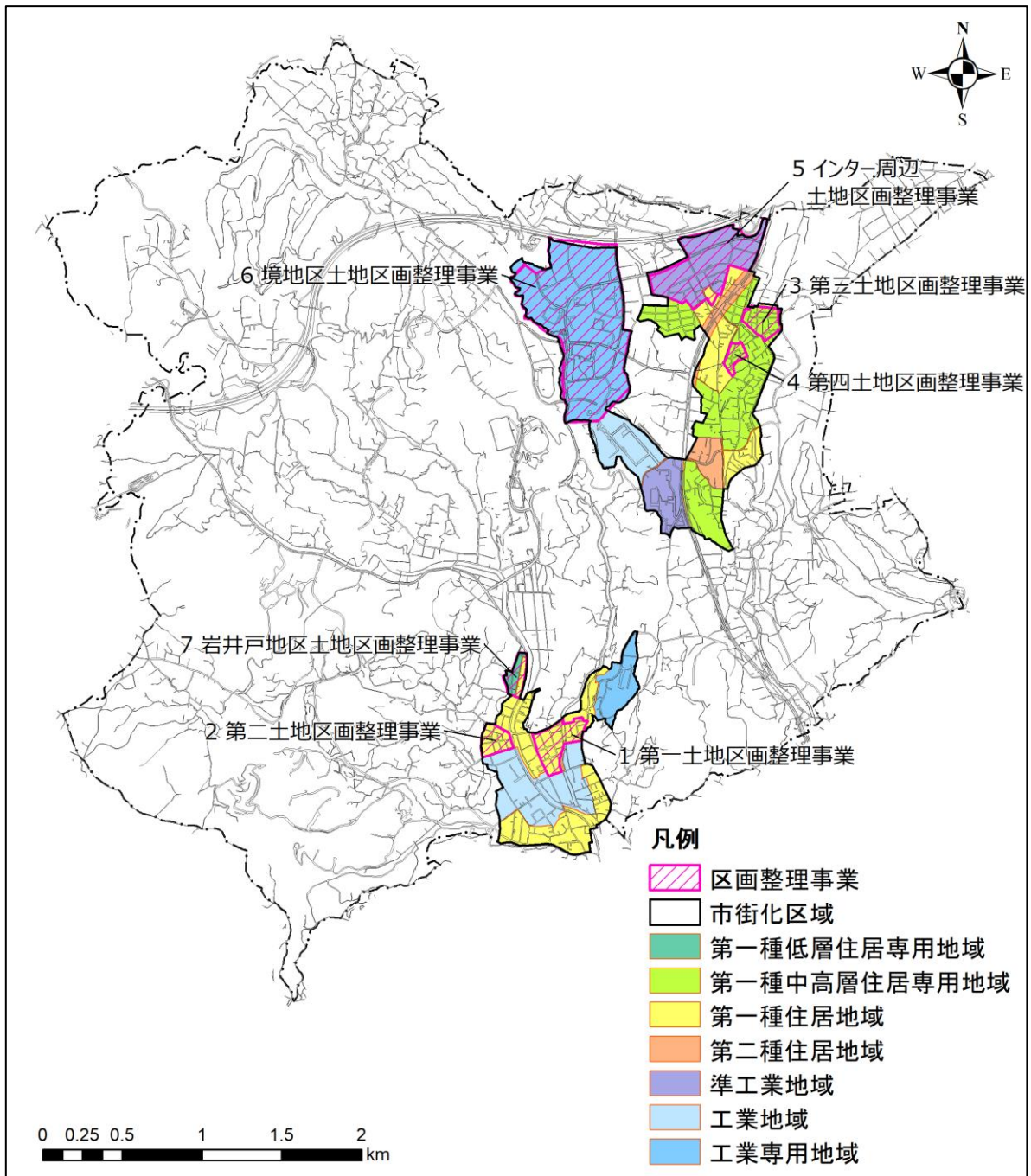
＜市街地開発事業＞

- 本町における市街地開発事業の施行状況をみると、組合施行による土地区画整理事業が7箇所、約91.5haで完了しています。
- その内、インター周辺土地区画整理事業は都市計画決定のもと実施され、約20.4haが平成11（1999）年に完了しています。

表 市街地開発事業の施行状況

図面 対照 番号	事業名	地区名	施行 主体	都市計画 決定の 有無	施行面積 (㎡)	施行年度	整備 状況
1	第一土地区画整理事業	北田他	組合		62,507	S49～53	完了
2	第二土地区画整理事業	田中	組合		30,331	S52～54	完了
3	第三土地区画整理事業	井ノ口	組合		40,688	S56～59	完了
4	第四土地区画整理事業	井ノ口	組合		17,662	S62～H3	完了
5	インター周辺土地区画整理事業	井ノ口	組合	有	204,035	S62～H11	完了
6	境地区土地区画整理事業	境	組合		535,500	H元～H8	完了
7	岩井戸地区土地区画整理事業	半分形	組合		24,674	H10～H15	完了
計					915,397	—	—

資料：中井町統計書（令和2年版）



資料：平成 27 年度都市計画基礎調査

図 土地区画整理事業の施行状況

⑤ 空家の状況

■ 空家棟数は、井ノ口地区が過半を占めている

- 中井町空家調査報告書（平成 28 年 3 月）によると、空家と判定された建物は 153 棟で、うち戸建て住宅は 119 棟、集合住宅は 34 棟あり、空家率は戸建て住宅 3.8%、集合住宅は 19.7%となっています。
- 地区別の空家棟数をみると、戸建て住宅・集合住宅ともに井ノ口地区が最も多く、戸建て住宅の空家が 57 棟、集合住宅の空家が 19 棟となっており、町の集合住宅の空家の過半を占めています。

表 空家の状況

所在地	空家棟数 (棟)	空家戸数 (戸)	総住宅戸数 (戸)	空家率 (%)
戸建	119	119	3,136	3.8
集合住宅	34	107	543	19.7
計	153	226	3,679	6.1

※戸建には事務所・倉庫等と思われるもの 3 戸を含む

※総住宅戸数は推計値

(中井町は住宅・土地統計調査の調査地区がなく住宅に関する統計データがないため、平成 27 年度固定資産税概要調書及び 2016 年 1 月 7 日の水道契約データから住宅戸数を推計)

資料：中井町空家調査報告書（平成 28 年 3 月）

表 地区別空家の状況

所在地	戸建住宅 (棟)	集合住宅 (棟)	合計 (棟)
境	4	0	4
中村上	17	1	18
中村下	41	14	55
井ノ口	57	19	76
計	119	34	153

資料：中井町空家調査報告書（平成 28 年 3 月）

(3) 都市交通

① 交通行動の動向

■ 近年の交通行動は減少傾向にあり、自動車への依存度が高くなっている

- 昭和 63 (1988) 年以降の本町で発生・集中する人の移動の推移をみると、平成 10 (1998) 年の 52,210 トリップエンドをピークに減少に転じ、平成 30 (2018) 年では昭和 63 (1988) 年の値を下回り、37,561 トリップエンドまで減少しています。
- 同様に代表交通手段 (1 回の移動で複数の交通手段を使用した場合の主な交通手段) の構成比の推移をみると、自動車の割合が最も高く、一貫して上昇する傾向にあります。

表 代表交通手段 (全目的) の推移

<実数>

(単位:トリップ・エンド)

	鉄道	バス	自動車	2 輪車	自転車	徒歩	計
昭和63年	2,659	3,669	19,882	817	2,452	11,882	41,361
平成10年	4,159	1,952	35,796	821	846	8,636	52,210
平成20年	6,797	1,742	34,918	0	1,270	5,754	50,481
平成30年	4,562	1,000	27,409	1,911	384	2,295	37,561

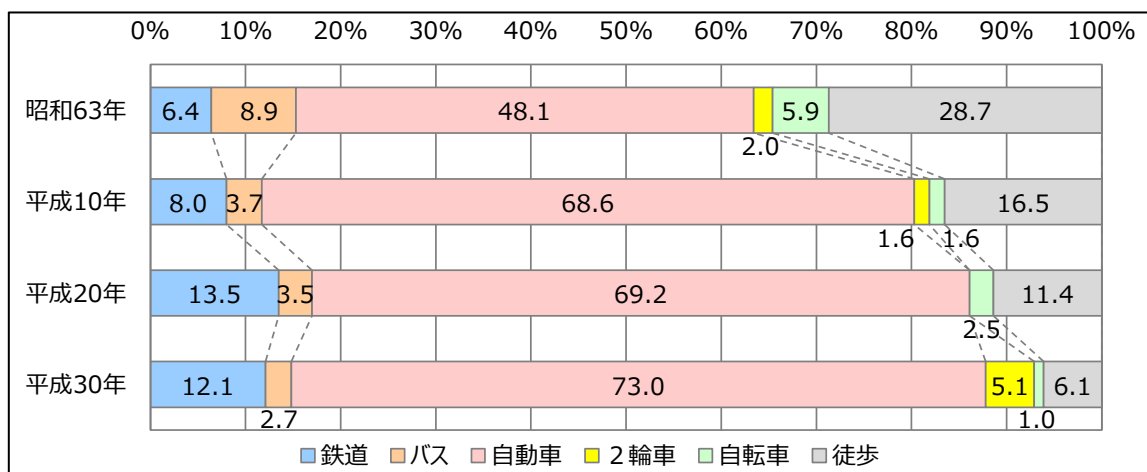
※不明は除く

<構成比>

(単位:%)

	鉄道	バス	自動車	2 輪車	自転車	徒歩	計
昭和63年	6.4	8.9	48.1	2.0	5.9	28.7	100.0
平成10年	8.0	3.7	68.6	1.6	1.6	16.5	100.0
平成20年	13.5	3.5	69.2	0.0	2.5	11.4	100.0
平成30年	12.1	2.7	73.0	5.1	1.0	6.1	100.0

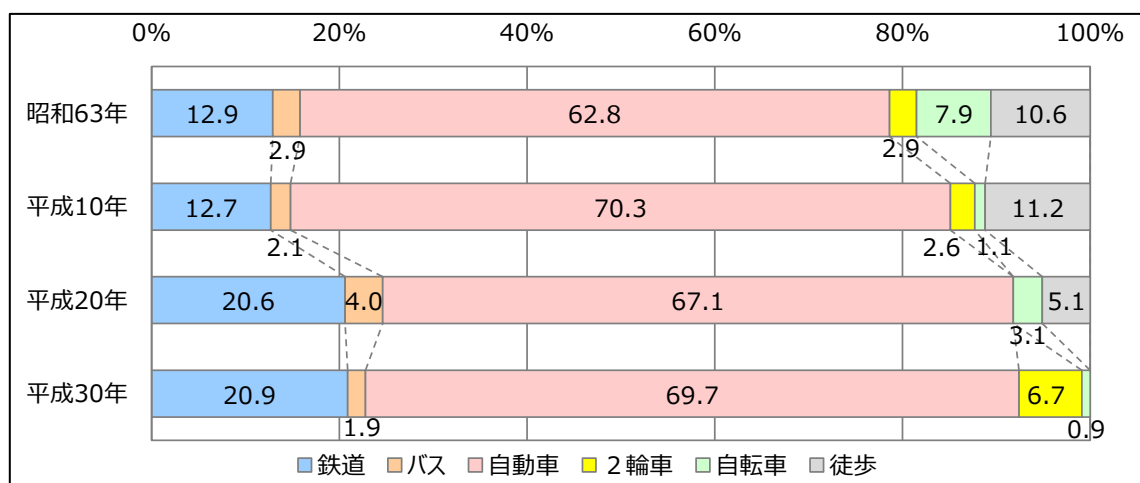
資料：東京都市圏パーソントリップ調査



資料：東京都市圏パーソントリップ調査

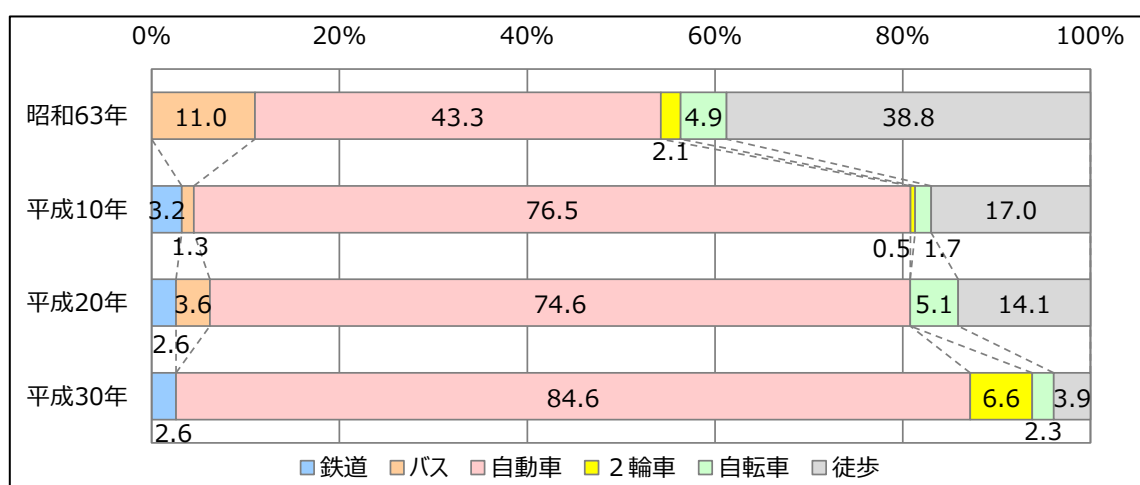
図 代表交通手段 (構成比) の推移

- 通勤に関わる代表交通手段をみると、自動車の割合が最も高く6～7割で、次いで鉄道が1～2割の水準で推移しています。
- 私事に関わる代表交通手段をみると、自動車の割合が昭和63年の43.3%から平成30（2018）年では84.6%へと大きく上昇する一方で、バスの割合は低下しています。



資料：東京都市圏パーソントリップ調査

図 代表交通手段（通勤・構成比）の推移



資料：東京都市圏パーソントリップ調査

図 代表交通手段（私事・構成比）の推移

② 公共交通の動向

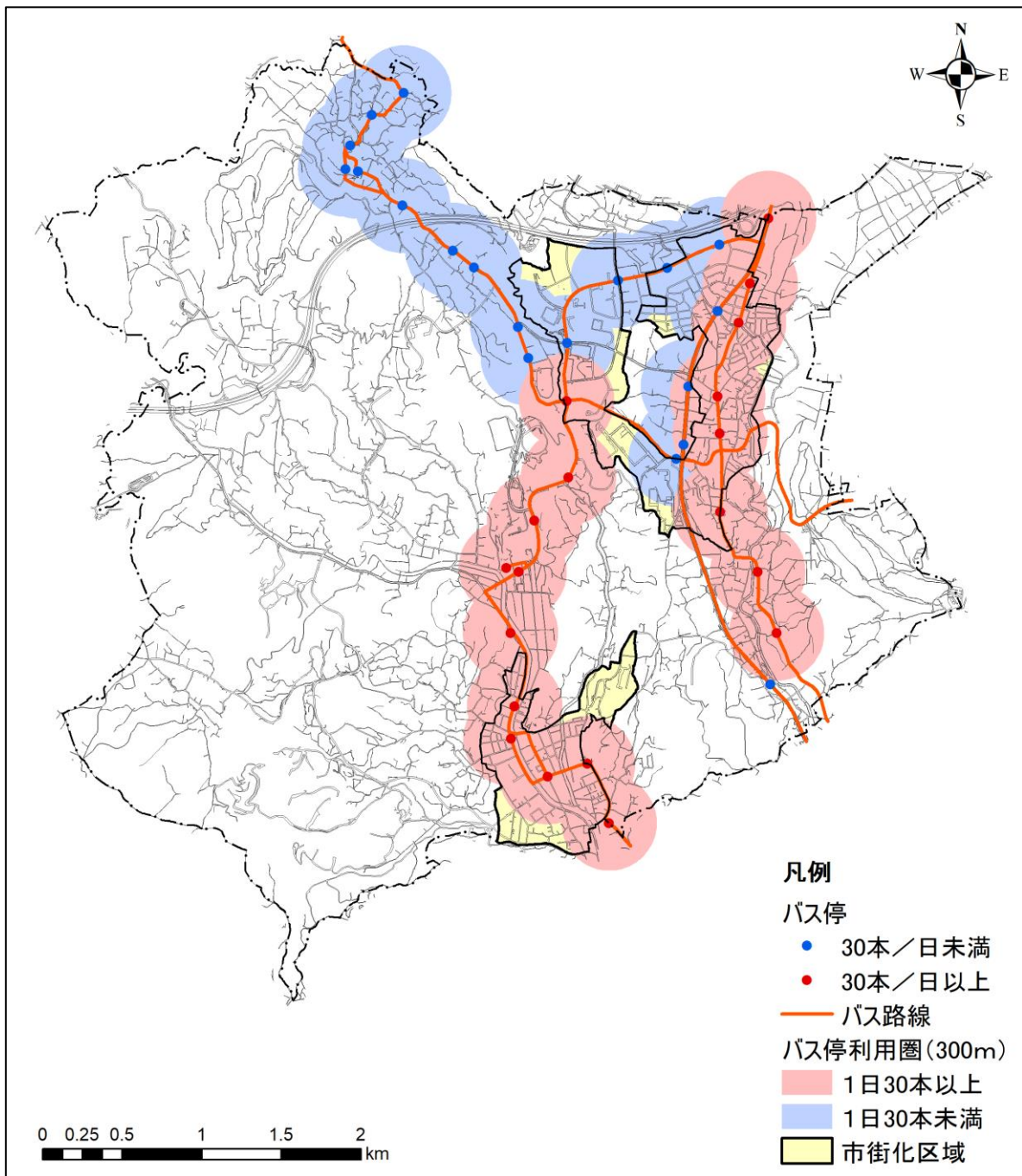
- 公共交通は、二宮駅、秦野駅への路線バスが主体となっている
- オンデマンドバスが運行され、路線バスを補完している
- 路線バスの利用圏外で人口が多く分布する地区もみられる

- 本町に鉄道駅はなく、最寄り駅はＪＲ東海道線二宮駅または小田急線秦野駅となっており、町内の公共交通は路線バスとオンデマンドバスが担っています。
- 路線バスについては、町内と秦野駅、二宮駅を結ぶ路線が主体となっており、その他に平塚駅を結ぶ路線があります。
- オンデマンドバスは、町内 119 か所及び秦野赤十字病院の乗降ポイントを結び、利用者が事前に乗りたい場所や時間を予約して、乗り合いによってそれぞれの目的地まで移動するシステムで、13 人乗りワゴン車 2 台により運行されています。

表 路線バスの運行状況

路 線	1日当たりの運行回数					
	往 路(回)			復 路(回)		
	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日
秦野駅南口～平塚駅北口	15	14	14	15	15	15
秦野駅北口～中井町役場入口～万年橋	1	0	0	1	0	0
秦野駅南口～中井町役場入口	34	23	23	36	23	23
秦野駅南口～二宮駅北口	56	44	41	53	44	41
二宮駅南口～中井町役場入口	44	37	37	44	38	38

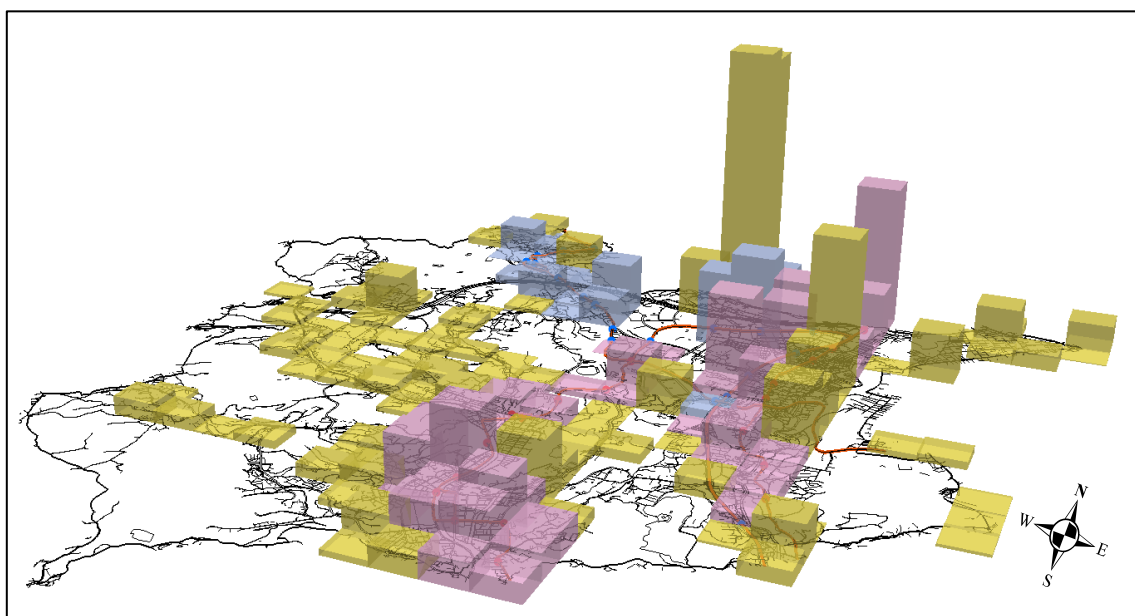
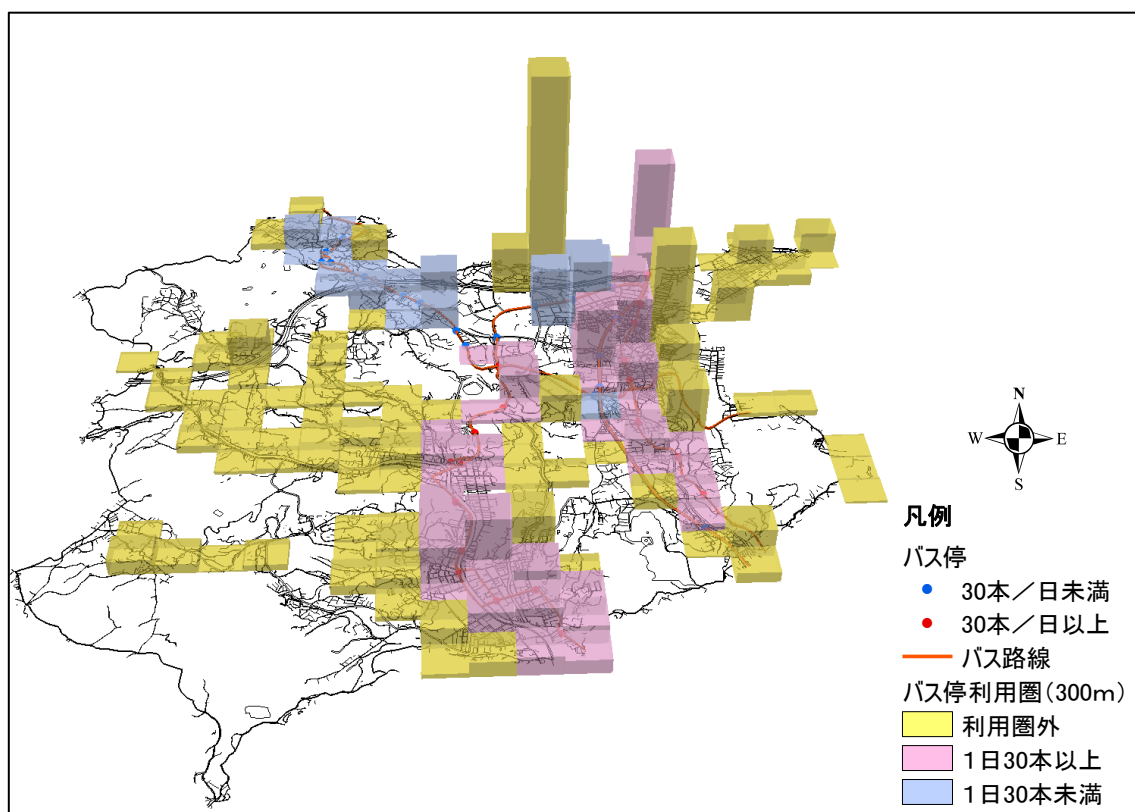
資料：中井町統計書（令和２年版）神奈川中央交通西（株）（令和３年１月末日現在）



資料：神奈川中央交通HP等

図 路線バスの運行状況

- 路線バスのバス停利用圏（300m）と人口の分布状況を見ると、バス停利用圏外で人口が多く分布する地区もみられます。



※250mメッシュの高さが人口の分布状況（高い⇒多い、低い⇒少ない）を示す

資料：国勢調査、神奈川中央交通HP等
図 バス利用利便区域と人口の重ね合わせ

③ 幹線道路網

■ 主な幹線道路として、東名高速道路のほか県道 71 号や県道 77 号がある

- 主な幹線道路として、東名高速道路が町の北部を東西方向に横断し、秦野中井 IC から東京都心方面と名古屋方面に繋がっています。
- 県道 71 号（秦野二宮）は、町の東部を南北方向に縦断し、秦野中井 IC により東名高速道に連絡するとともに、秦野市で国道 246 号に、二宮町で国道 1 号、西湘バイパスと小田原厚木道路（国道 271 号）に連絡しています。
- その他に、県道 77 号（平塚松田）が町の中央を横断し平塚市、大井町や松田町へのアクセス道路、県道 709 号（中井羽根尾）が役場周辺から小田原市へのアクセス道路となっています。

④ 交通量

■ 道路の混雑度は、東名高速道路で 1 を超えている

- 平成 27（2015）年の道路交通センサスによる主要な道路の 24 時間交通量を見ると、東名高速道路が 8 万台超、県道 71 号（秦野二宮）が 1.6～2.6 万台、県道 77 号（平塚松田）が 0.5～1.0 万台、県道 709 号（中井羽根尾）が 1.1 万台となっており、東名高速道路で混雑度が 1 を超えています。
- 平成 22（2010）年と比較すると、東名高速道路と県道 709 号（中井羽根尾）が減少し、県道 71 号（秦野二宮）と県道 77 号（平塚松田）が増加しています。

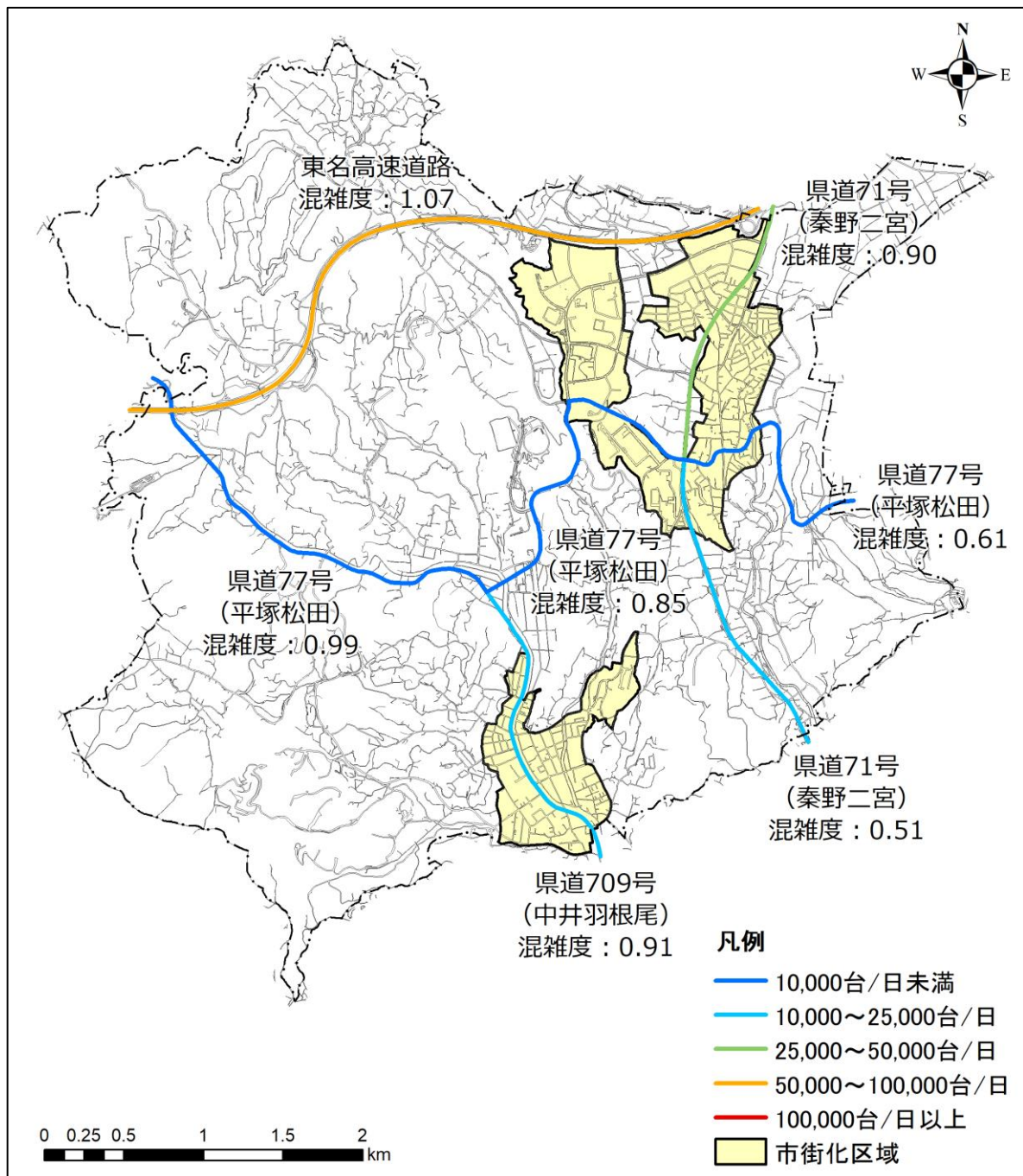
表 交通量

路線名	区間 (起点～終点)	24時間交通量			混雑度	昼間12時間 大型車 混入率(%)
		平成22年 (台/日)	平成27年 (台/日)	増加率 (%)		
東名高速道路	秦野市・中井町境 ～中井町・大井町境	93,008	83,327	▲ 10.4	1.07	39.2
県道71号 (秦野二宮)	秦野市・中井町境 ～平塚松田	24,636	26,096	5.9	0.90	15.8
	平塚松田 ～中井町・二宮町境	13,730	16,436	19.7	0.51	8.5
県道77号 (平塚松田)	平塚市・中井町境 ～秦野二宮	4,852	5,129	5.7	0.61	12.1
	秦野二宮 ～中井羽根尾	9,264	9,808	5.9	0.85	17.6
	中井羽根尾 ～中井町・大井町境	9,686	9,808	1.3	0.99	14.5
県道709号 (中井羽根尾)	平塚松田 ～中井町・小田原市境	11,232	11,059	▲ 1.5	0.91	11.4

資料：道路交通センサス

<混雑度の目安>

- ～1.00 : 混雑することなく、円滑に走行できる。
- 1.00～1.25 : 混雑する可能性のある時間帯が1～2時間あるものの、何時間も連続する可能性は小さい。
- 1.25～1.75 : ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が増加する可能性が高い。
- 1.75～2.00 : 慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 50%に達する。
- 2.00～ : 慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 70%に達する。



資料：道路交通センサス

図 交通量（平成 27（2015）年）

(4) 経済活動

① 農業の動向

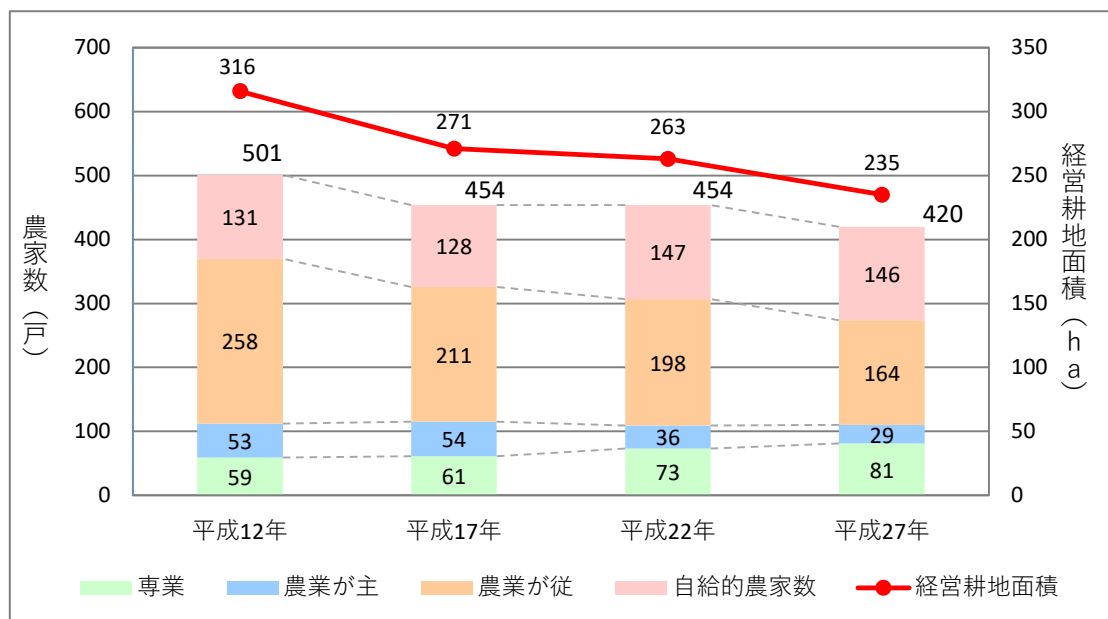
■ 販売農家が減少し、兼業農家も減少する一方で、専業農家は増加している

- 平成 12 (2000) 年以降の総農家数の推移をみると、平成 12 (2000) 年 (501 戸) から平成 27 (2015) 年 (420 戸) までに、81 戸が減少しています。増減の内訳をみると、販売農家が 96 戸の減少となっている一方で、自給的農家は 15 戸の増加となっています。
- また、同様に販売農家数の推移をみると、兼業農家が減少する一方で、専業農家は増加傾向となっています。
- 経営耕地面積は、農家数の減少に伴い減少傾向にありますが、販売農家 1 戸あたりの平均経営耕地面積は、平成 22 (2010) 年以降横ばいとなっています。

表 専・兼業別販売農家戸数の推移

年次	総農家数 (戸)	販売農家						自給的 農家数 (戸)
		総数 (戸)	専業 (戸)	兼業(戸)		経営耕地面積		
				農業が主	農業が従	総面積 (ha)	販売農家1戸 あたり面積 (ha/戸)	
平成12年	501	370	59	53	258	316	0.85	131
平成17年	454	326	61	54	211	271	0.83	128
平成22年	454	307	73	36	198	263	0.86	147
平成27年	420	274	81	29	164	235	0.86	146

資料：農業センサス



資料：農業センサス

図 専・兼業別販売農家戸数の推移

② 商業の動向

■ 商業は平成 26（2014）年以降、回復傾向にある

- 平成 14（2002）年以降の小売業の推移をみると、事業所数、従業者数、売場面積は、平成 24（2012）年度まで減少傾向で推移していますが、平成 26（2014）年以降は回復傾向にあります。

表 小売業の動向

年次	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)
平成14年	59	328	5,218	2,376
平成19年	59	348	9,539	2,408
平成24年	46	259	X	1,638
平成26年	52	333	X	4,321
平成28年	57	436	7,249	5,400

※「X」は秘匿値

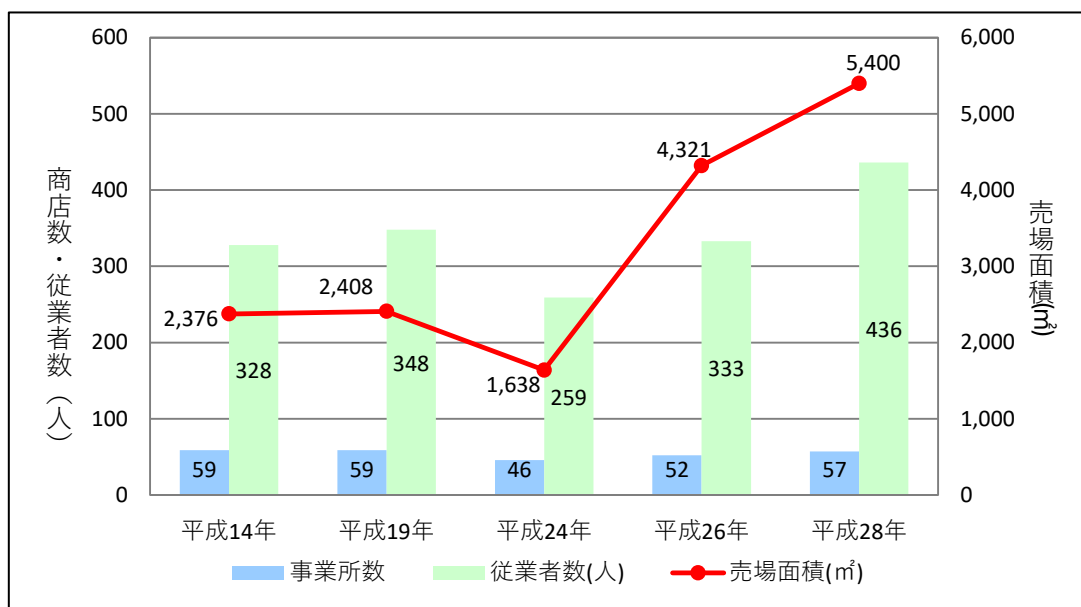
※商業統計調査：平成 14 年、平成 19 年、平成 26 年

経済センサス：平成 24 年、平成 26 年

※商業統計調査においては、平成 26 年から調査対象数及び産業分類方法が変更になり、例年調査との数値の乖離が生じている。

※商業統計調査及び経済センサスは調査対象が異なる。

資料：商業統計、経済センサス



資料：商業統計、経済センサス

図 小売業の動向

③ 工業の動向

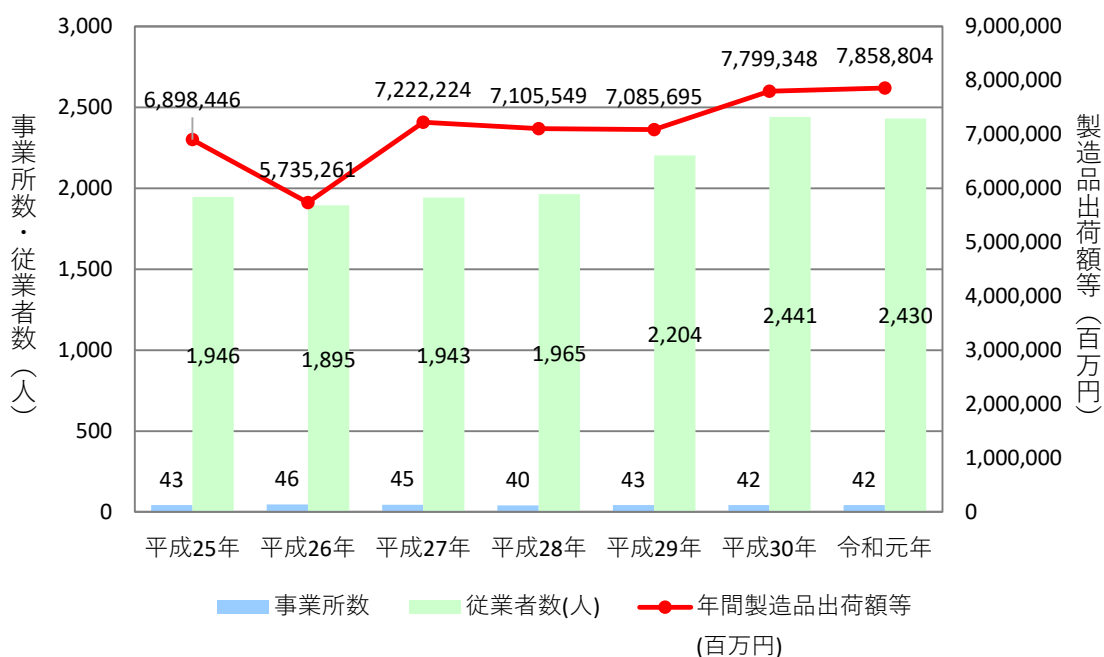
■工業は平成 27（2015）年以降、回復傾向にある

- 平成 25（2013）年以降の推移をみると、事業所数はほぼ横ばいで推移しているものの、従業員数は増加傾向となっています。
- 製造品出荷額は、平成 26（2014）年度に一度落ち込むものの、平成 27（2015）年以降は回復傾向にあります。

表 製造業の動向

年次	事業所数	従業者数 (人)	年間製造品出荷額等 (百万円)
平成25年	43	1,946	6,898,446
平成26年	46	1,895	5,735,261
平成27年	45	1,943	7,222,224
平成28年	40	1,965	7,105,549
平成29年	43	2,204	7,085,695
平成30年	42	2,441	7,799,348
令和元年	42	2,430	7,858,804

資料：工業統計、経済センサス



資料：工業統計、経済センサス

図 製造業の動向

④ 観光の動向

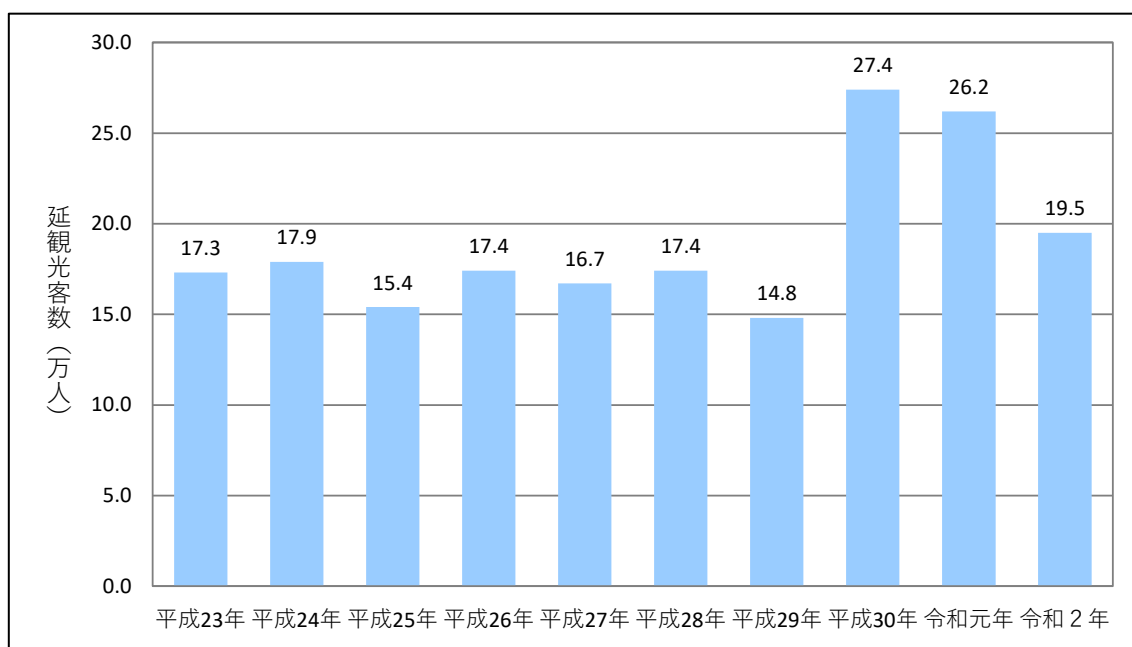
■観光客数は、平成 30（2018）年に大きく増加している

- 平成 23（2011）年以降の観光客数の推移をみると、日帰りの観光が主体となっており、平成 29（2017）年までは 15～18 万人であったものが、平成 30（2018）年に 27.4 万人と 12.6 万人増加しています。
- これは、調査対象となる観光地点等が平成 29（2017）年まで 4 箇所だったものが、平成 30（2018）年以降、7 箇所となったことが大きな要因となっています。

表 観光客の推移

年次	延観光客数 (万人)	宿泊客数 (万人)	日帰り客数 (万人)
平成23年	17.3	—	17.3
平成24年	17.9	—	17.9
平成25年	15.4	—	15.4
平成26年	17.4	—	17.4
平成27年	16.7	—	16.7
平成28年	17.4	—	17.4
平成29年	14.8	—	14.8
平成30年	27.4	—	27.4
令和元年	26.2	—	26.2
令和2年	19.5	—	19.5

資料：神奈川県入込観光客調査



資料：神奈川県入込観光客調査

図 観光客の推移

(5) 財政

① 歳入

- 歳入は、40 億円前後で推移している
- 町民税は、他の費目と比較し変動が大きくなっている

- 平成 22（2010）年度以降の歳入総額の推移をみると、平成 25（2013）年度までは緩やかに減少し、その後は 40 億円前後の横ばいで推移しています。
- 費目別にみると、町民税は 7.3～12.0 億円で推移しており、他の費目と比較し変動が大きくなっています。

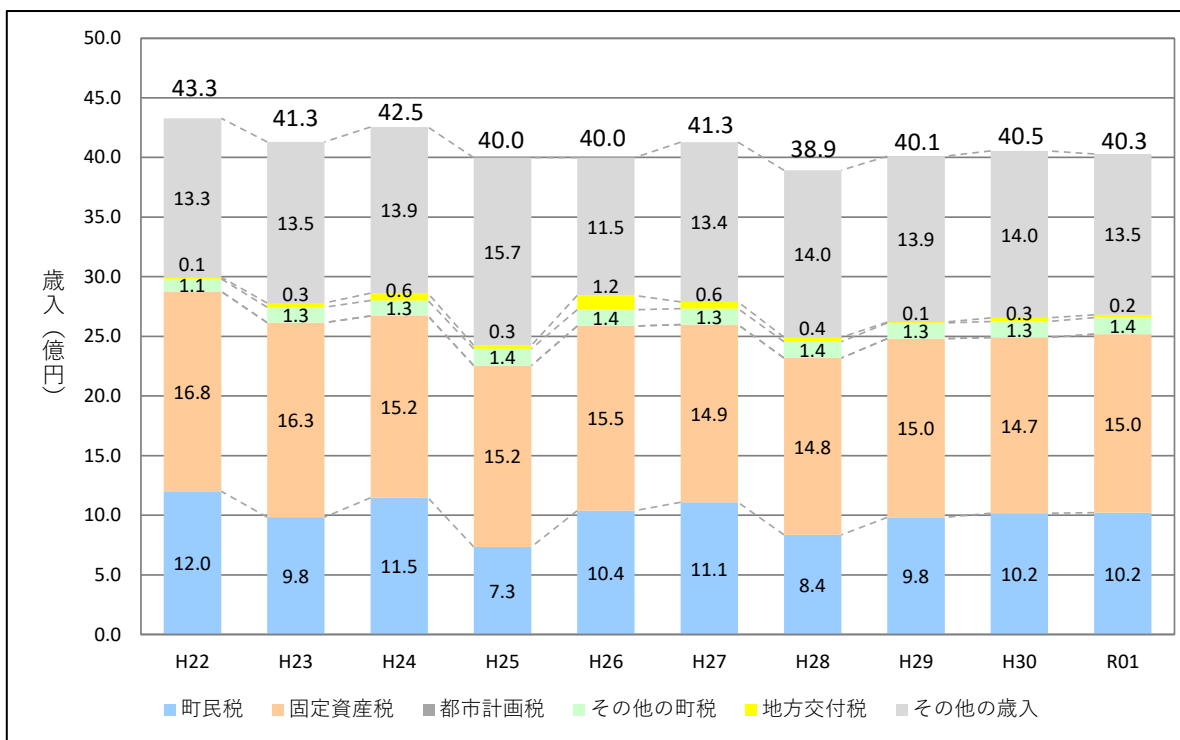
表 費目別歳入額の推移

<実数>

（単位：億円）

費目	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
町民税	12.0	9.8	11.5	7.3	10.4	11.1	8.4	9.8	10.2	10.2
固定資産税	16.8	16.3	15.2	15.2	15.5	14.9	14.8	15.0	14.7	15.0
都市計画税	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の町税	1.1	1.3	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.4
地方交付税	0.1	0.3	0.6	0.3	1.2	0.6	0.4	0.1	0.3	0.2
その他の歳入	13.3	13.5	13.9	15.7	11.5	13.4	14.0	13.9	14.0	13.5
歳入総額	43.3	41.3	42.5	40.0	40.0	41.3	38.9	40.1	40.5	40.3

資料：財政状況資料集



資料：財政状況資料集

図 費目別歳入額の推移（実数）

② 歳出

■歳出は、36～40 億円で推移している

■扶助費は、緩やかな増加傾向となっている

- 平成 27（2015）年度以降の歳出総額の推移をみると、36～40 億円で推移しています。
- 費目別にみると、扶助費については、緩やかな増加傾向となっています。

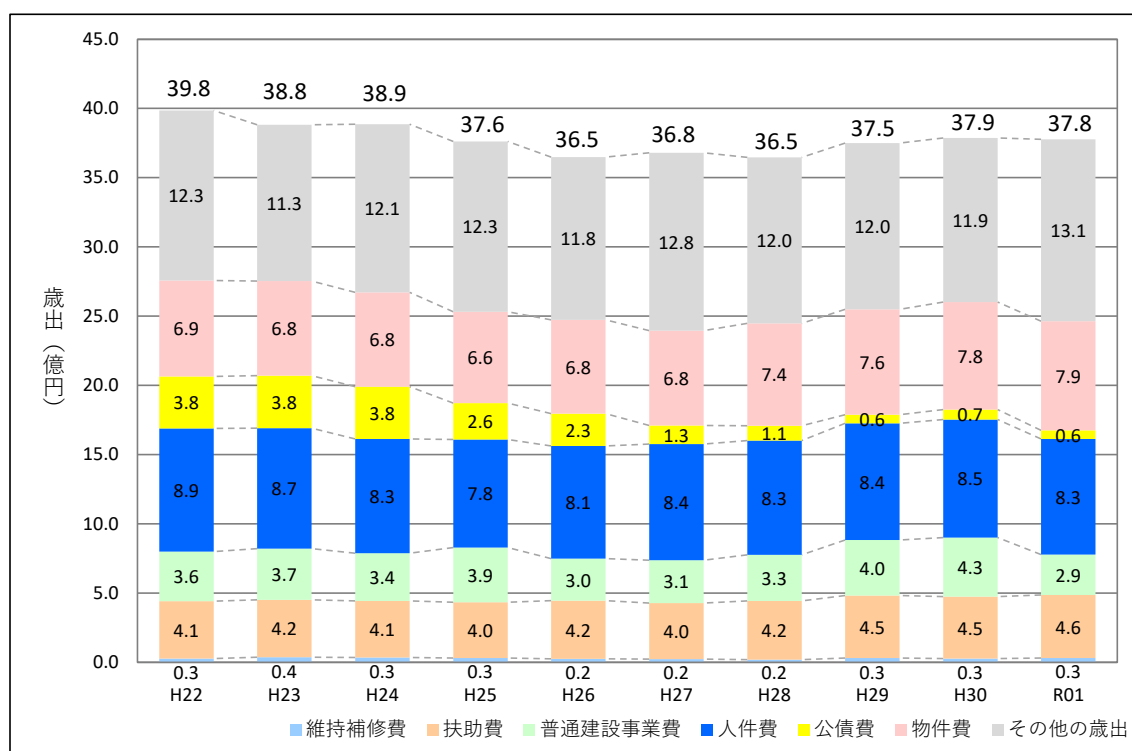
表 費目別歳出額の推移

<実数>

（単位：億円）

費目	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
維持補修費	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3
扶助費	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2	4.0	4.2	4.5	4.5	4.6
普通建設事業費	3.6	3.7	3.4	3.9	3.0	3.1	3.3	4.0	4.3	2.9
人件費	8.9	8.7	8.3	7.8	8.1	8.4	8.3	8.4	8.5	8.3
公債費	3.8	3.8	3.8	2.6	2.3	1.3	1.1	0.6	0.7	0.6
物件費	6.9	6.8	6.8	6.6	6.8	6.8	7.4	7.6	7.8	7.9
その他の歳出	12.3	11.3	12.1	12.3	11.8	12.8	12.0	12.0	11.9	13.1
歳出総額	39.8	38.8	38.9	37.6	36.5	36.8	36.5	37.5	37.9	37.8

資料：財政状況資料集



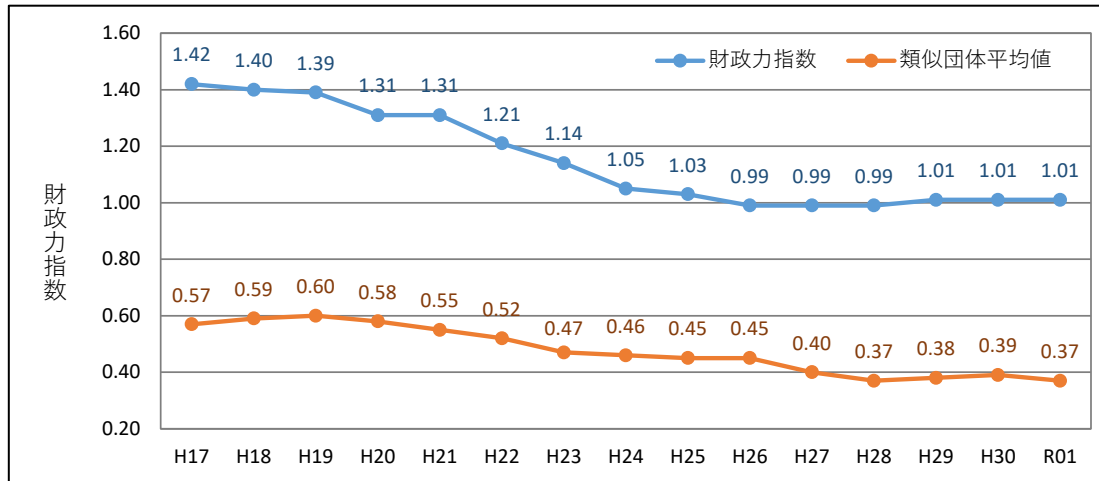
資料：財政状況資料集

図 費目別歳出額の推移（実数）

③ 財政状況

■ 財政力指数と経常収支比率は、類似他団体と比較し高い水準となっている

- 平成 17 (2005) 年度以降の財政力指数は、類似他団体と比較し高い水準となっており、平成 26・27 (2014・2015) 年度を除き 1.00 以上なっています。推移をみると、平成 26 (2014) 年度までは下降し、平成 27 (2015) 年以降は概ね横ばいとなっています。
- 経常収支比率は、平成 21～25 (2009～2013)、28 (2016) 年で税収の減少などにより上昇し、類似他団体平均値を上回っています。

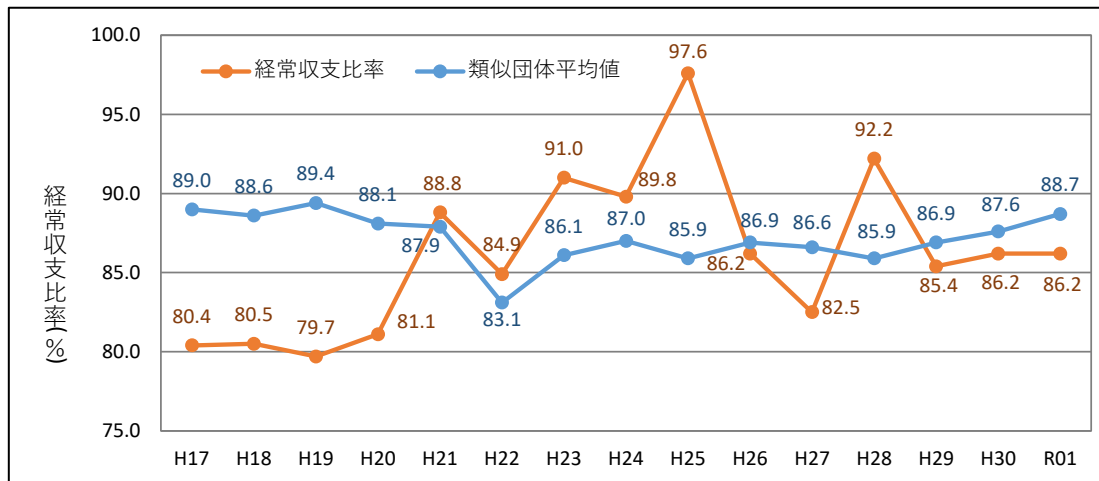


※財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去 3 年間の平均値である。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の保留財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

※類似団体：地方公共団体を人口と産業構造により分類したもので、類似する地方公共団体との比較により、財政状況の特徴を把握することができる。

資料：財政状況資料集

図 財政力指数の推移



※経常収支比率：経常経費充当一般財源（人件費、扶助費、公債費などのように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源）が、経常一般財源（一般財源総額のうち地方税、普通交付税のように毎年度経常的に収入される一般財源）、減収補填債特例分及び臨時財政対策費の合計に対し、どの程度の割合となっているかをみることにより、財政構造の弾力性を判断するものである。

資料：財政状況資料集

図 経常収支比率の推移

(6) 地価

■ 住宅地の平均地価は下落する一方で、工業地の平均地価は上昇している

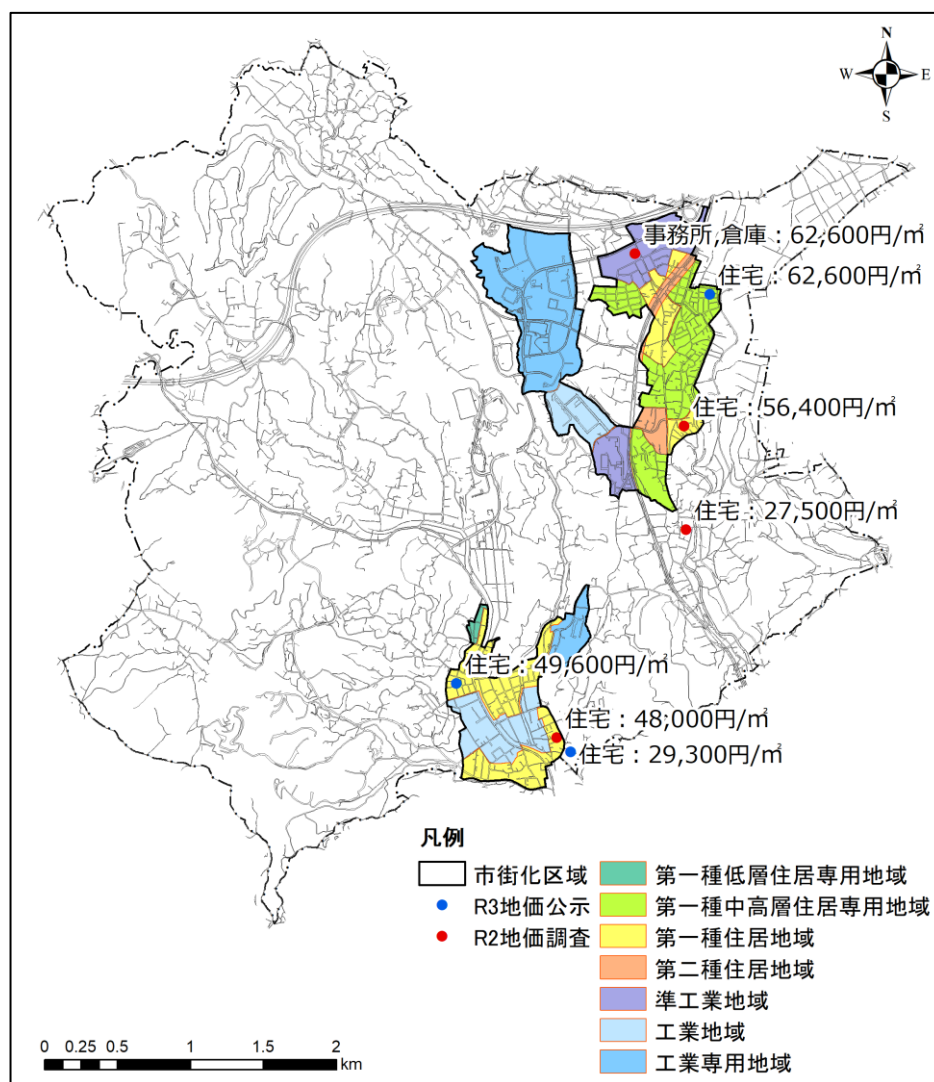
- 令和2（2020）年の土地利用別の平均地価をみると、市街化区域の住宅地は54,775 円/㎡、市街化区域の工業地は62,600 円/㎡、市街化調整区域の住宅地は28,700 円/㎡となっています。

表 土地利用状況別の平均地価の推移

（単位：円/㎡）

土地利用	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
住宅地 (市街化区域)	73,375	70,850	68,725	66,450	63,850	60,650	59,525	57,900	56,325	54,775
工業地 (市街化区域)	—	—	—	—	61,600	61,600	61,600	61,600	62,200	62,600
住宅地 (市街化調整区域)	39,850	38,200	36,800	35,300	33,800	32,000	31,400	30,500	29,550	28,700

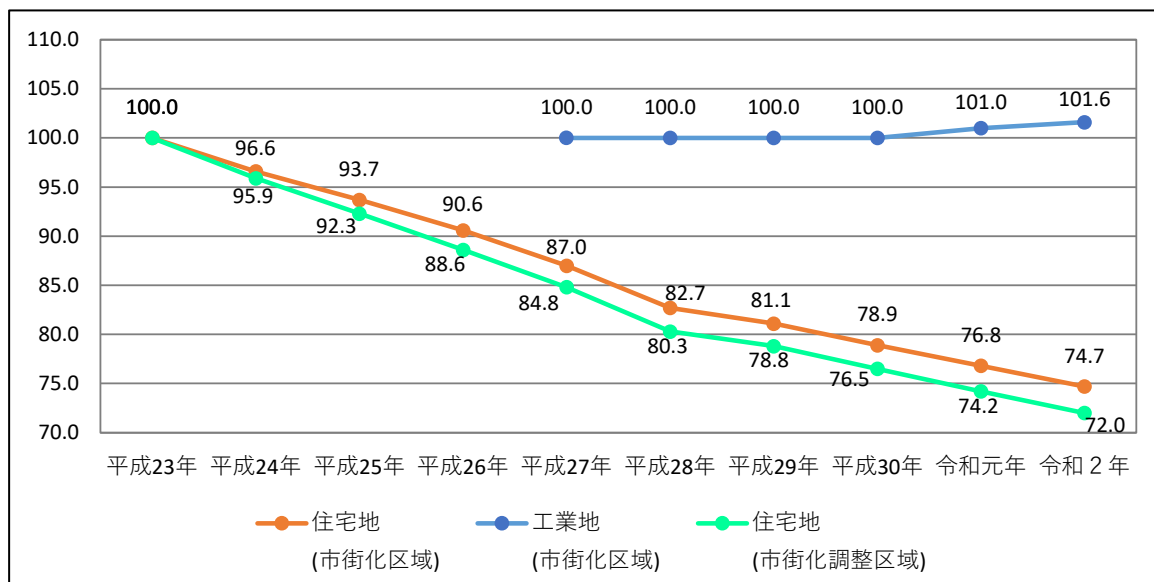
資料：地価公示、都道府県地価調査



資料：地価公示、都道府県地価調査

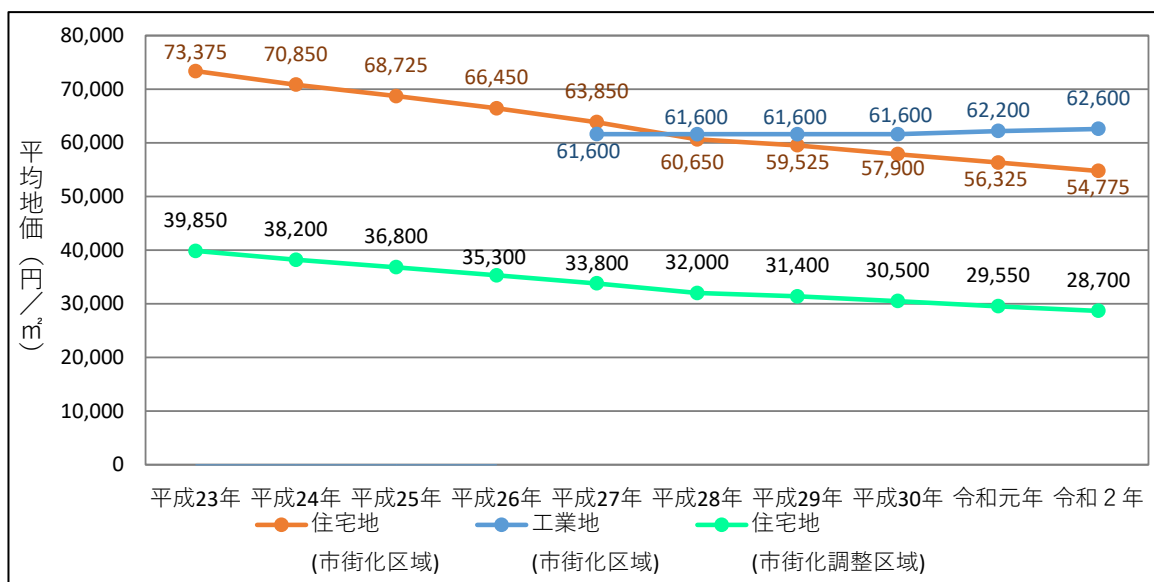
図 地価の状況（令和2（2020）年）

- 平成 23 (2011) 年以降の住宅地の平均地価の推移をみると、市街化区域、市街化調整区域ともに下落しています。平成 23 (2011) 年の平均地価を 100 とした場合、令和 2 (2020) 年で市街化区域が 74.7、市街化調整区域が 72.0 となっており、市街化調整区域の下落幅が若干大きくなっています。
- 平成 27 (2015) 年以降の工業地の平均地価の推移をみると、平成 30 (2018) 年までは横ばいでしたが、令和元年以降は上昇しており、平成 28 (2016) 年以降は、住宅地（市街化区域）の平均地価を上回っています。



資料：地価公示、都道府県地価調査

図 土地利用状況別の平均地価の推移（平成 23・27 (2011・2015) を 100 とした指数）



資料：地価公示、都道府県地価調査

図 土地利用状況別の平均地価の推移（実数）

(7) 災害

① 地震

■ 町南部の中村川沿岸と藤沢川沿岸、秦野中井 IC 周辺は揺れやすい地域となっている

- 神奈川県内に一律のマグニチュード 6.8 の震源を想定した場合の揺れやすさを示した「中井町地震ハザードマップ」では、町南部の中村川沿岸と藤沢川沿岸、秦野中井 IC 周辺が揺れやすい地域となっています。

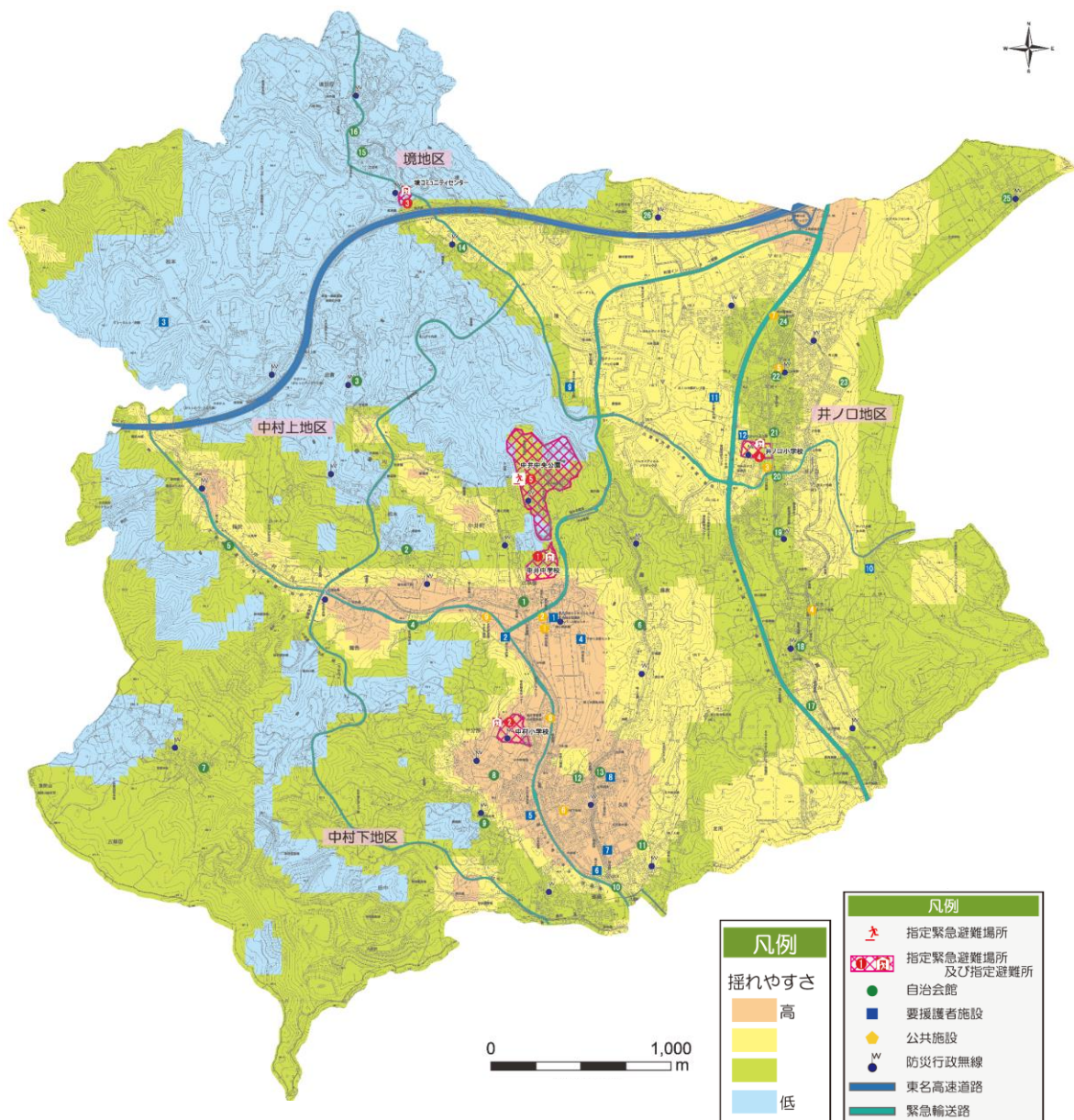


図 中井町地震ハザードマップ

② 水害

■一部地域では3 m以上（5 m未満）の浸水が想定されている

- 中村川と藤沢川の破堤や溢水などによる外水浸水の浸水深のうち、最大のものを示す「中村川水系中村川・藤沢川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」では、一部地域で3 m以上（5 m未満）の浸水が想定されています。

③ 土砂災害

■土砂災害の恐れのある区域は、町全体に分布している

- 急傾斜地の崩壊による災害を防止するための急傾斜地崩壊危険区域が7箇所、土砂災害の恐れのある土砂災害特別警戒区域が81区域（土石流が16区域、急傾斜地の崩壊が65区域）、土砂災害警戒区域が92区域（土石流が25区域、急傾斜地の崩壊が67区域）に指定されています。

④ 避難所等

■指定緊急避難所は、小中学校等の公共施設5箇所に指定されている

- 指定緊急避難所が小中学校等の公共施設の5箇所（うち中井中央公園を除く4箇所は指定避難所も兼ねる）が指定されています。
- また、災害時の人員や物資等の輸送に供する緊急輸送路として、県道3路線（「県道71号（秦野二宮）」、「県道77号（平塚松田）」、「県道709号（中井羽根尾）」）、町道3路線（「町道境平沢線」、「町道インター境線」、「広域農道小田原中井線」）を指定しています。

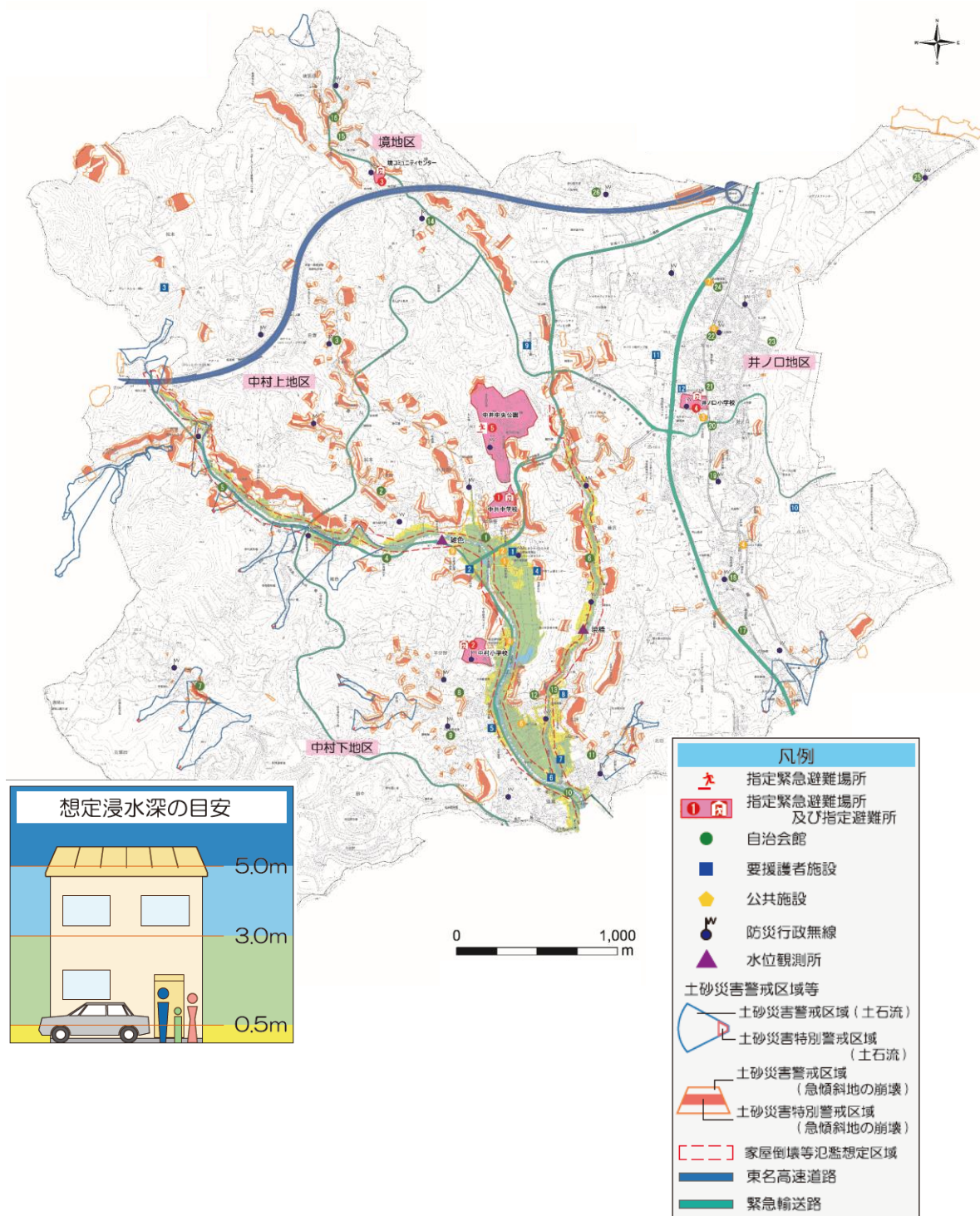
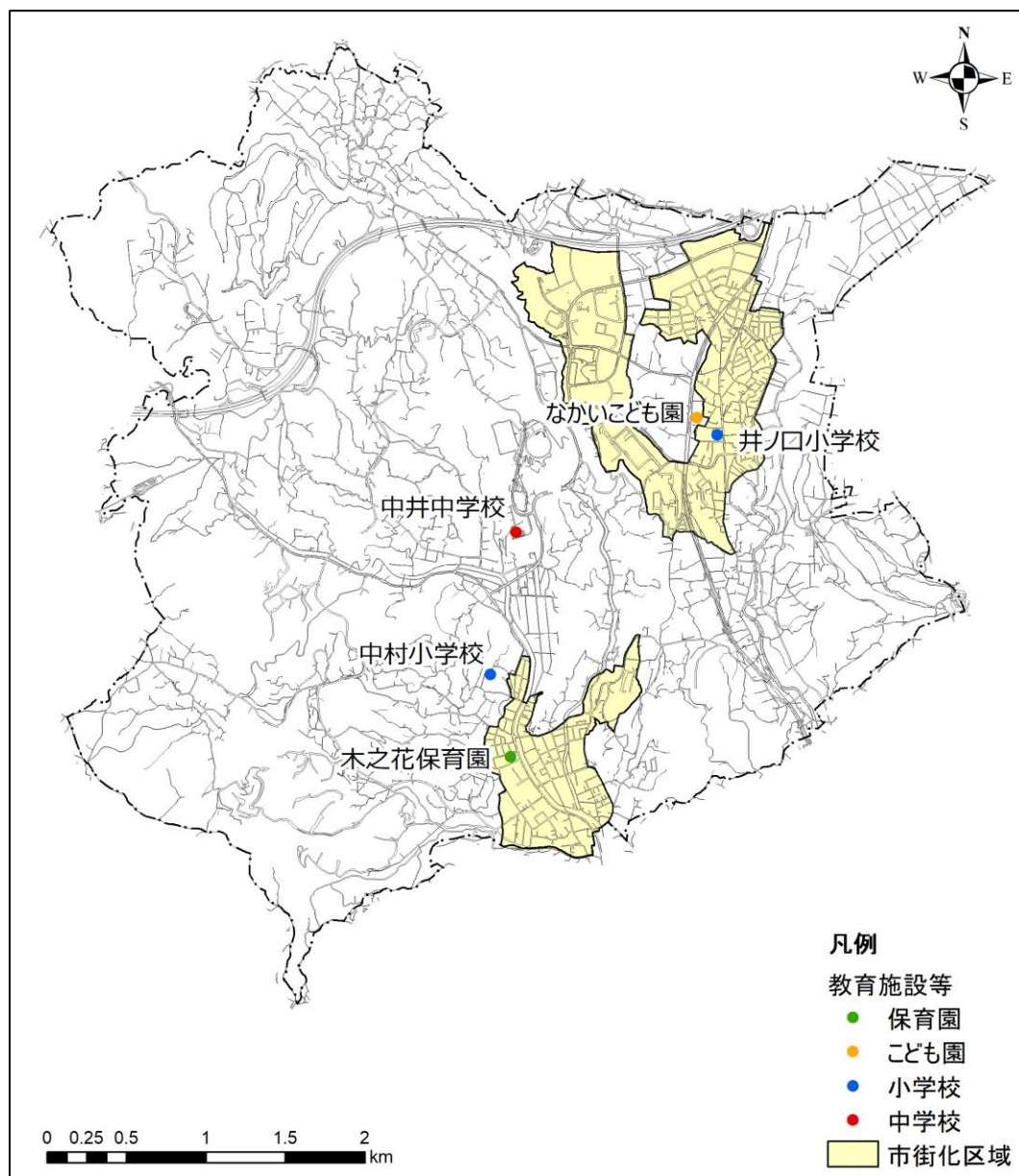


図 土砂災害・洪水ハザードマップ

- 教育施設として中学校が1校、小学校が2校あります。
- また、こども園と保育園がそれぞれ1園ずつあります。



資料：中井町HP

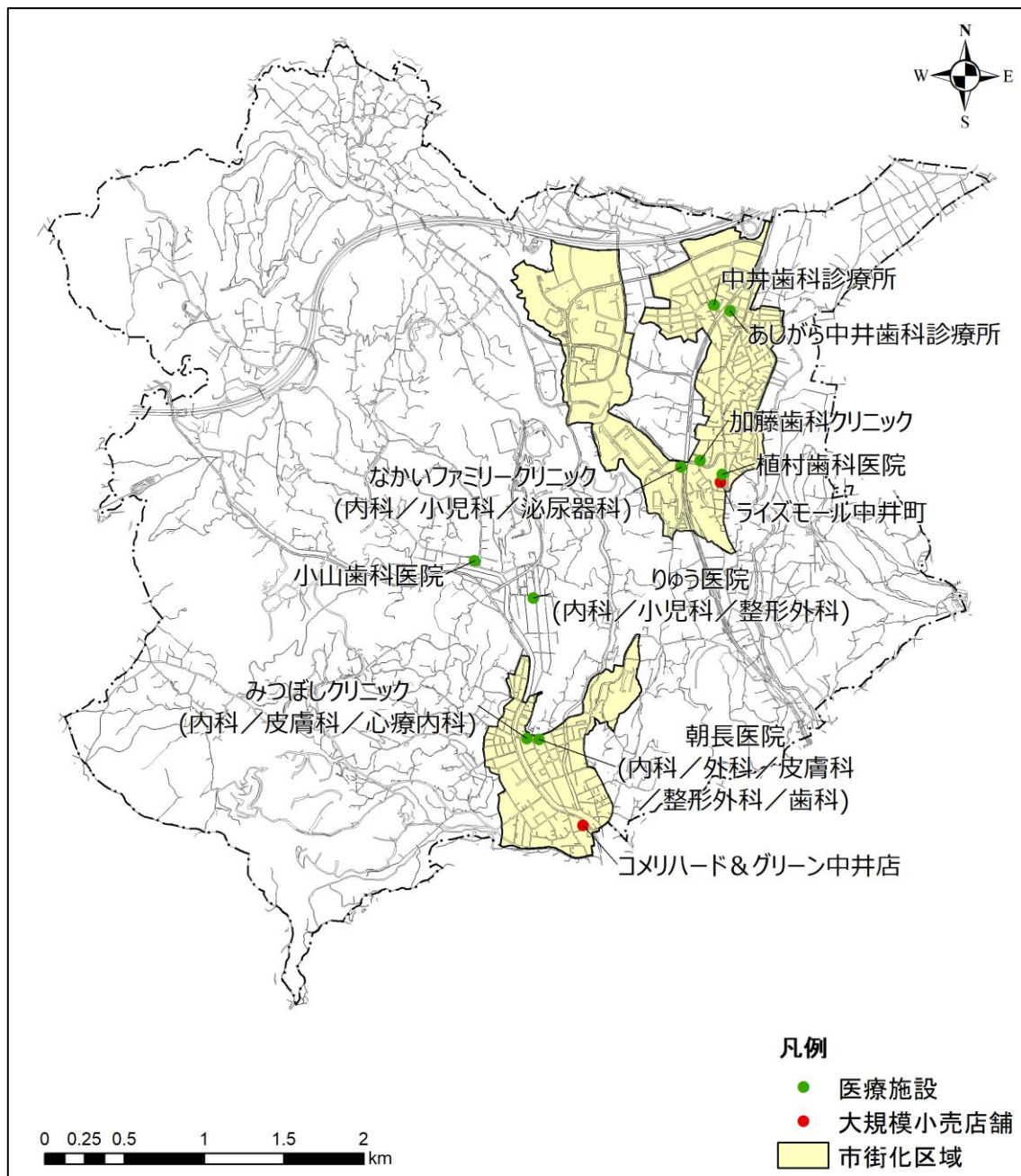
図 教育施設等の分布状況

② 都市機能施設の配置状況

■ 内科・外科を診療科とする診療所が4箇所、歯科診療所が6箇所立地している

■ 大規模小売店舗（1,000㎡以上の）は、2店舗立地している

- 医療施設は内科または外科を診療科とする診療所が4箇所、歯科診療所が6箇所（重複1箇所）となっています。
- 1,000㎡以上の大規模小売店舗は、中村地区と井ノ口地区に各1店舗立地しています。



資料：中井町HP等、神奈川県大規模小売店舗一覧

図 医療施設・小売店舗の分布状況

(9) 都市施設

① 都市計画道路の整備状況

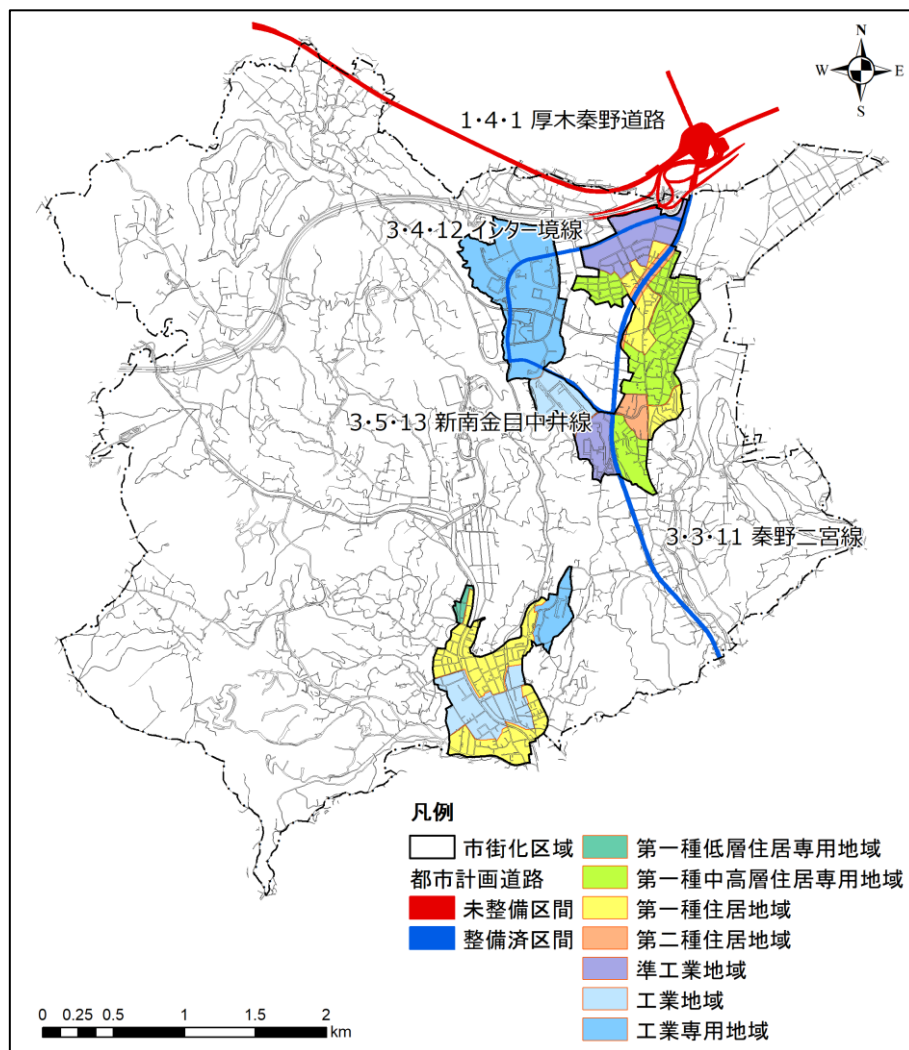
■ 都市計画道路は、4路線中3路線が整備済となっている

- 都市計画道路は、4路線、延長7,620mが計画されており、その内、1・4・1 厚木秦野道路を除く3路線、6,420m（84.3%）が整備済となっています。

表 都市計画道路の整備状況

番号	路線名	幅員 (m)	起点	終点	計画延長 (m)	整備済延長 (m)	整備率 (%)
1・4・1	厚木秦野道路	20.5	井ノ口字的台	境別所字大谷津	1,200	0	0.0
3・3・11	秦野二宮線	24.0	井ノ口字木戸	井ノ口字諏訪下	3,630	3,630	100.0
3・4・12	インター境線	16.0	井ノ口字上横原	境字清水	1,940	1,940	100.0
3・5・13	新南金目中井線	12.0	井ノ口字上ノ原	境字清水	850	850	100.0
合計		-	-	-	7,620	6,420	84.3

資料：平成27年度都市計画基礎調査



資料：平成27年度都市計画基礎調査

図 都市計画道路の整備状況

② 公園の整備状況

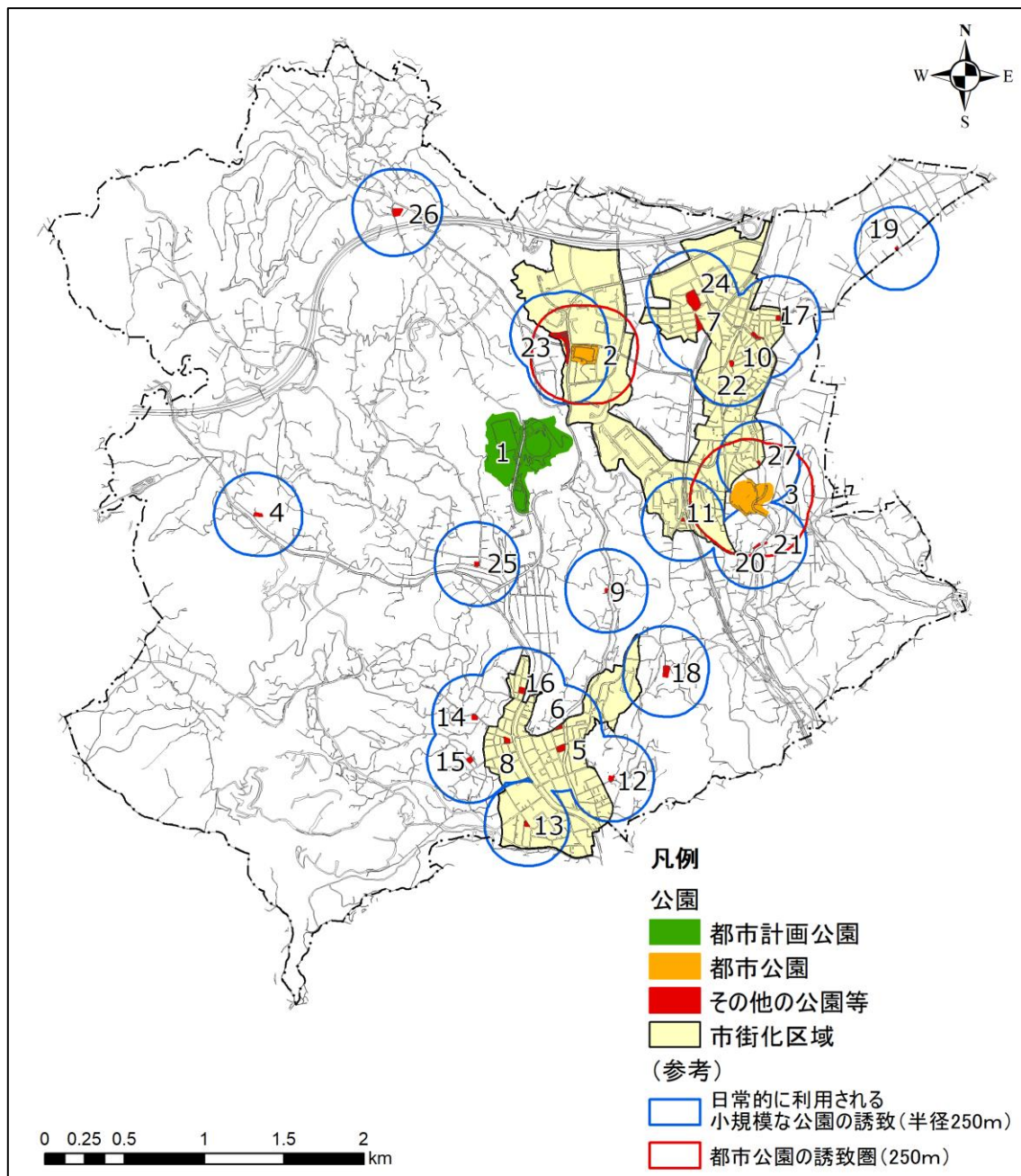
■ 公園は 27 箇所が整備されている

- 公園は都市計画公園が 1 箇所、都市公園が 2 箇所、その他の公園が 24 箇所の計 27 箇所が整備されています。

表 公園の整備状況

番号	名称	面積(㎡)	備考	番号	名称	面積(㎡)	備考
1	6・5・11中井中央公園	178,000	都市計画決定公園(運動公園)	15	大久保公園	764	
2	境グリーンテックパーク公園	17,200	都市公園	16	岩井戸公園	1,000	
3	巖島湿生公園	25,900	都市公園	17	井ノ口第一青少年広場	500	
4	鴨沢児童遊園地	813		18	富士見台いこいの広場	1,800	
5	五所ノ宮児童公園	1,549		19	遠藤原いこいの広場	214	
6	五所ノ宮幼児公園	419		20	中津いこいの広場1	258	
7	宮原児童公園	1,850		21	中津いこいの広場2	52	
8	田中児童公園	914		22	井ノ口第二青少年広場	531	
9	藤沢児童遊園地	271		23	グリーンテック西広場	4,607	
10	井ノ口第一児童遊園地	735		24	大的公園	6,518	
11	関ノ上小公園	147		25	松本下公園	607	
12	北田児童遊園地	541		26	境コミュニティセンター	1,200	
13	遠藤児童遊園地	395		27	清太ヶ谷公園	184	
14	半分形青少年広場	723					

資料：中井町統計書（令和2年版）



資料：中井町統計書（令和２年版）、平成２７年度都市計画基礎調査
 ※公園誘致圏は「中井町緑の基本計画（平成２３年３月）P. 26 公園などの配置状況」を参考に作成。250mは街区公園の誘致距離。

図 都市公園の整備状況

③ 公共下水道整備の整備状況

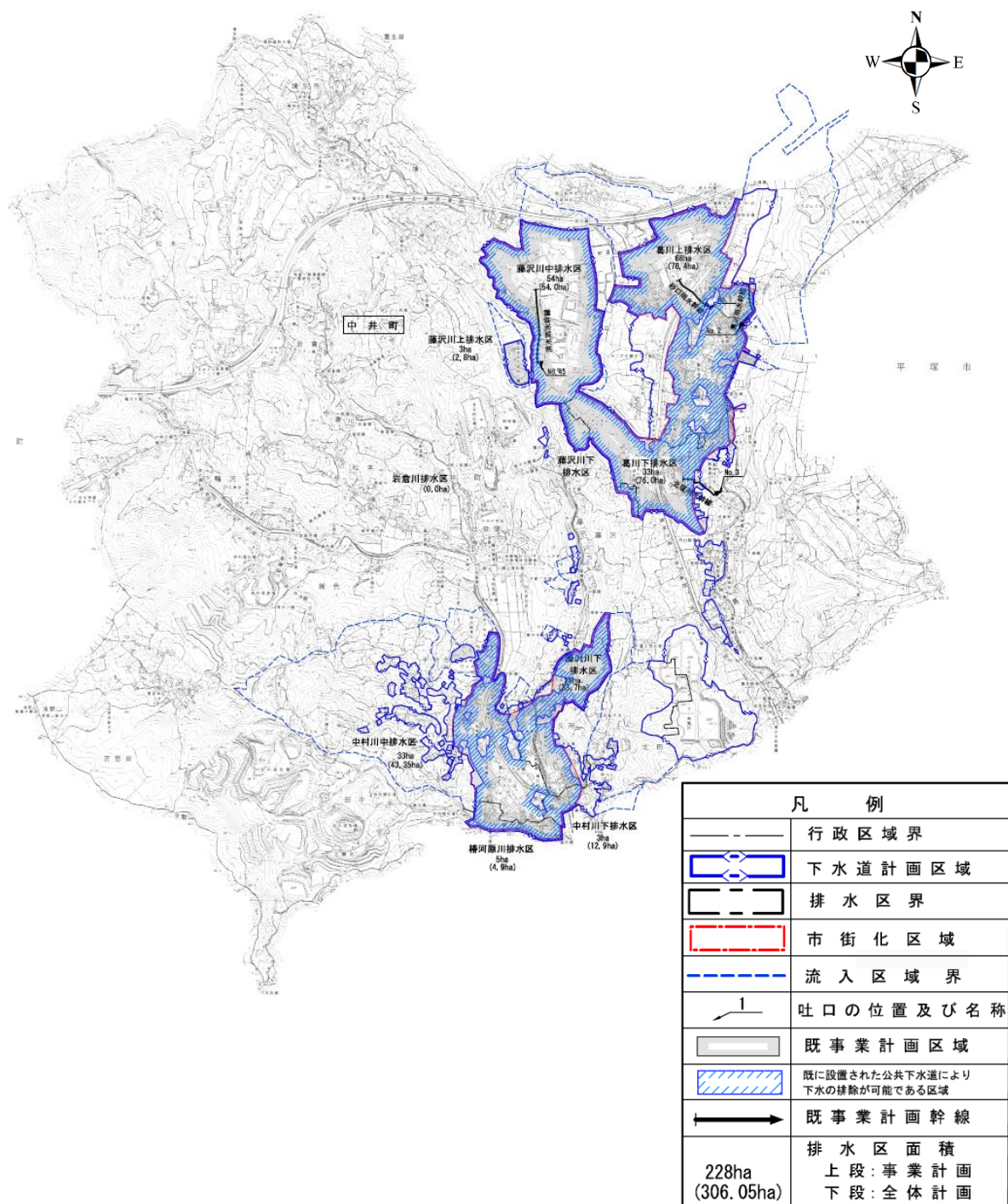
■ 公共下水道（污水）は、計画区域内人口に対する普及率が97.4%、計画面積に対する普及率が80.4%となっている

- 令和元（2019）年時点の公共下水道（污水）の整備状況をみると、計画区域内人口に対する普及率は97.4%、計画面積に対する普及率は80.4%となっています。
- 平成27年以降の推移をみると、普及率は面積、人口共に上昇しているものの、人口については、計画区域、処理区域共に減少傾向となっています。

表 公共下水道（污水）の整備状況

年次	計画区域内 人口(人) ①	全体計画 面積(ha) ②	処 理 区 域			普 及 率	
			人口(人) ③	戸数(戸)	面積(ha) ④	人口(%) (③/①)	面積(%) (④/②)
平成27年度	7,974	314	7,502	2,316	248.5	94.1	79.1
平成28年度	7,986	314	7,345	2,353	251.8	92.0	80.0
平成29年度	7,515	314	7,318	2,361	252.3	97.4	80.4
平成30年度	7,526	314	7,269	2,361	252.3	96.6	80.4
令和元年度	7,459	314	7,262	2,390	252.3	97.4	80.4

資料：中井町統計書（令和2年版）



資料：下水道一般図

図 公共下水道（雨水）の整備状況

(10) 文化財

■ 国登録記念物や神奈川県指定の天然記念物のほか、町指定の重要文化財などが分布している

- 町内には、国登録記念物の「震生湖」、神奈川県指定の天然記念物の「中井の槐」のほか、町指定の重要文化財、史跡文化財名勝地、名木百選、美林などが分布しています。

表 国登録記念物（動物、植物及び地質鉱物関係）

種別	名称	所在地・所有者	備 考	指定年月日
天然記念物	震生湖	境別所 秦野市今泉	大正12年(1923年)9月1日の関東大地震により誕生した堰止湖	R3.3.26

表 神奈川県指定天然記念物

種別	名称	所在地・所有者	備 考	指定年月日
天然記念物	中井の槐	中井町雑色226	子の神社境内にあり、高さ16m、幹8m、樹齢800年と推定、中国産まめ科の落葉喬木	S33.6.2

表 中井町指定重要文化財

種別	名称	所在地・所有者	備 考	指定年月日
無形文化財	鷺の舞	五所八幡宮	素朴で古典的な祈禱舞である。	S52.4.1
有形民俗文化財	半分形の山車と彫物	半分形自治会	彫刻は極めて精巧、一見して都会的感覚を受ける優れた美術工芸品である。	S52.4.1
	田中の山車と彫物	大久保自治会	華やかさはないが、滋味深く極めて落ち着いた美しさをもっている。	S52.4.1
	宮本の山車と彫物	遠藤・北田・五所宮・久所自治会	彫刻は極めて素朴豪放な彫で力強さに魅力を感じる。	S52.4.1
	藤沢の山車と彫物	藤沢自治会	他の山車と趣を異にし、彫刻が対象的な味わいをもっている。	S52.4.1
無形民俗文化財	五所八幡宮（五所宮囃子）	宮本地区保存会 藤沢地区保存会 田中地区保存会 半分形地区保存会	この囃子はその沿革からも奉納囃子の性格が強く、初期には現在の山車の前身である組立式屋台から奉納されたものである。	S52.4.1 S53.11.1 S54.4.1 S54.12.1
	五所八幡宮【雅楽】	奏楽保存会	八幡宮の祭典時の献饌、献饌に奏する。	S60.4.1
有形文化財 彫刻	木造十一面観音坐像	大久保自治会	彩色を施さない素朴状の尊容は飾気ない坐像である。	S60.4.1
	木造大日如来坐像	半分形自治会	胎内仏は、神像風古様の示す優品である。	S60.4.1
	木造薬師如来立像	泰翁寺	右手施無畏印で左手に薬壺を持つ量感ある立像である。	S60.4.1
	木造阿弥陀三尊像	境別所自治会	中尊、優れた藤原仏と思われる。	S60.4.1
有形文化財 工芸	五所八幡宮の梵鐘	五所八幡宮	普通の釣鐘型、青銅鑄造	S60.4.1
	米倉寺の梵鐘	米倉寺	350年の歴史を経た古鐘である。	S60.4.1
有形文化財 彫刻	米倉寺本堂大間正面及び内陣の欄間彫刻六基	米倉寺	彫刻は立派な風格がある逸品	S60.4.1
有形文化財 建造物	米倉一族墓石、供養塔十基	米倉寺	三百数十年の風霜に耐え、整った美しさをもつ石塔と供養塔	S60.4.1
	半分形谷戸庭道祖神	半分形自治会	寛文11年(1671)建立、僧形、長袖ですっきりした双体像。塔石と台石に咬み合わせがある。	H9.6.1
	半分形沖庭道祖神	半分形自治会	寛文11年(1671)建立。素朴な僧形、長袖の双体像	H9.6.1
	雑色下庭道祖神	雑色自治会	寛文9年(1669)建立。東日本最古の像と考えられる双体像。塔石と台石に咬み合わせがある。	H9.6.1
	鴨澤中庭道祖神	鴨沢自治会	寛文12年(1672)建立。長袖五頭身のすっきりしている双体像	H9.6.1
	古怒田道祖神	古怒田自治会	元禄8年(1695)建立。慈愛に満ちた面差しで有髪双体像	H9.6.1
	垂揺球儀【E時板符天機】	江戸民具街道 中井町久所418	江戸時代後期に加賀藩で金沢城の時鐘として厩作りに使われていた振り子式精密天文時計	H11.8.18

資料：中井町HP

表 史跡文化財名勝地、名木百選、美林、街並一覽

番号	名称	所在地	
1	上岩井戸横穴群	北田	上岩井戸
2	床城城址	半分形	床城
3	木造大日如来坐像	田中	荒井
4	半分形谷戸庭道祖神	半分形	谷津頭
5	半分形沖庭道祖神	半分形	愛街
6	観音堂	古怒田	雑路場
7	菅原神社と石仏	古怒田	出口
8	古怒田道祖神	古怒田	出口
9	仙元塔	古怒田	四辻
10	鬼王段三郎の墓	鴨沢	池田
11	須藤家の門	鴨沢	南ノ下
12	鴨澤中庭道祖神	鴨沢	南ノ下
13	大泉寺	鴨沢	南ノ下
14	鴨沢城址	鴨沢	城山
15	雑色家の百足丸	雑色	雑色前
16	玄張寺	雑色	雑色前
17	中井のえんじゅ(名木)	雑色	郷中
18	子ノ神社	雑色	郷中
19	雑色上庭道祖神	雑色	猪駒屋敷
20	雑色下庭道祖神	雑色	道場開戸
21	五所八幡宮	遠藤	宮郷
22	五所八幡宮の森(美林)	遠藤	宮郷
23	五所八幡宮の梵鐘	遠藤	宮郷
24	木造十一面観音坐像	田中	屋敷下
25	広翁院	田中	大光寺
26	塔ノ台石仏	田中	塔の下
27	うわなくち横穴群	田中	塚の台
28	五輪塔	遠藤	滝の前
29	宇塔坂五輪塔	北田	駒形
30	地蔵菩薩像他	遠藤	根下
31	弘法大師堂	北田	杉の下
32	一本松跡と道標	藤沢	六間
33	加藤家のマリア観音像	久所	久ヶ郷
34	藤沢横穴群	藤沢	仙現山
35	清岩寺	藤沢	石原畑
36	藤沢鑄銭座跡	藤沢	丸畑
37	藤沢木梨山横穴群	藤沢	木梨山
38	藤沢松葉横穴群	藤沢	松葉
39	地蔵菩薩像	比奈窪	下道
40	雑色横穴群	松本	堂山
41	諏訪神社	松本	諏訪ノ庭
42	泰翁寺	松本	寺際
43	泰翁寺のイトヒバ(名木)	松本	寺際
44	木造薬師如来立像	松本	寺際

番号	名称	所在地	
45	天神社	松本	俎原
46	宗玄寺	本境	内谷津
47	須賀神社	本境	内谷津
48	虚空蔵菩薩像	本境	内谷津
49	木造阿弥陀三尊像	境別所	上ノ前
50	震生湖	境別所	
51	八幡神社	境別所	宮ノ前
52	池窪の大悲観音像	境	池窪
53	阿弥陀如来像	井ノ口	砂口
54	八坂神社	井ノ口	砂口
55	地蔵菩薩像	境原	原ノ中
56	稻荷社	境原	蔵内窪
57	大塚の石仏	境原	大塚
58	蓑笠神社	井ノ口	宮上
59	蓑笠神社のケヤキ(名木)	井ノ口	宮上
60	地蔵堂	井ノ口	宮上
61	花籠の台	井ノ口	遠藤原
62	馬場跡	井ノ口	遠藤原
63	井ノ口墓ノ前遺跡	井ノ口	宮前
64	日枝神社	井ノ口	遠藤原
65	地蔵菩薩像	井ノ口	遠藤原
66	子授け地蔵	井ノ口	遠藤原
67	厳島神社	井ノ口	北窪
68	薬師堂	井ノ口	北窪
69	三光院跡	井ノ口	北窪
70	米倉寺	井ノ口	北窪
71	米倉寺の梵鐘	井ノ口	北窪
72	米倉寺本堂大間正面及び内陣欄間の彫刻六基	井ノ口	北窪
73	米倉一族供養塔十基	井ノ口	北窪
74	近藤家の五輪塔群	井ノ口	下井ノ口
75	近藤家住宅(茅葺)	井ノ口	下井ノ口
76	誠成館跡	井ノ口	下井ノ口
77	八幡神社	井ノ口	下井ノ口
78	如意輪観音像		
79	聖観音菩薩像	井ノ口	五分一
80	神明神社	井ノ口	五分一
81	珠泉院	井ノ口	五分一
82	飯綱社	井ノ口	五分一
83	久所横穴群	久所	
84	比奈窪横穴群	比奈窪	
85	比奈窪中屋敷横穴群	比奈窪	
86	大山道一里塚	北田	
87	震生湖	境別所	秦野市今泉

※所在地は、中村地区は大字及び小字、井ノ口地区は大字及び自治会名で表示

資料：中井町HP

2. まとめ（再掲）

（1） 人口・世帯数

① 人口【P. 1】

- 人口は、平成 7（1995）年をピークに減少傾向にあります。
- 人口の将来見通しは、更なる少子高齢化の進展が予想されます。

② 世帯【P. 2・3】

- 世帯数は増加傾向にある一方で、1 世帯当たり人員は縮小傾向にあります。
- 高齢夫婦世帯と単身高齢者世帯は増加傾向にあります。

③ 人口動態【P. 4・5】

- 平成 18（2006）年以降は一貫して自然減となっています。
- 社会減の要因として高校卒業後の若い世代の町外への転出が多くなっています。

④ 字別人口の推移【P. 6～11】

- 秦野中井 IC 周辺での人口集積がみられます。
- 郊外での人口減少、高齢化が顕著となっています。

⑤ 通勤・通学流動【P. 12・13】

- 昼夜間人口比率は、昼間人口が夜間人口を上回る流入超過となっています。
- 町外への通勤は、近隣市のほか、横浜市と東京都（23 区）が多くなっています。

（2） 土地利用

① 土地利用制限【P. 14～17】

- 市街化区域は、町域の約 1 割で、工業系用途地域が過半を占めています。
- 地区計画は、4 地区で策定されています。

② 土地利用の動向【P. 18～20】

- 土地利用は、自然的土地利用が約 7 割を占めています。
- 土地利用の推移をみると、住宅用地、商業・業務用地や工業用地などが増加しています。

③ 都市的未利用地の状況【P. 21・22】

- 市街化区域内における都市的未利用地は、減少傾向にあります。

④ 開発の動向【P. 23～27】

- 農地転用は、年間 30 件前後で推移しています。
- 建築確認受付件数は、大部分が専用住宅で減少傾向にあります。
- 市街地開発事業は、組合施行による土地区画整理事業が 7 箇所完了しています。

⑤ 空家の状況【P. 28】

- 空家棟数は、井ノ口地区が過半を占めています。

(3) 都市交通

① 交通行動の動向 【P. 29・30】

■近年の交通行動は減少傾向にあり、自動車への依存度が高くなっています。

② 公共交通の動向 【P. 31～33】

■公共交通は、二宮駅、秦野駅への路線バスが主体となっています。

■オンデマンドバスが運行され、路線バスを補完しています。

■路線バスの利用圏外で人口が多く分布する地区もみられます。

③ 幹線道路網 【P. 34】

■主な幹線道路として、東名高速道路のほか県道 71 号や県道 77 号があります。

④ 交通量 【P. 34・35】

■道路の混雑度は、東名高速道路で 1 を超えています。

(4) 経済活動

① 農業の動向 【P. 36】

■販売農家が減少し、兼業農家も減少する一方で、専業農家は増加しています。

② 商業の動向 【P. 37】

■商業は、平成 26 (2014) 年以降、回復傾向にあります。

③ 工業の動向 【P. 38】

■工業は、平成 27 (2015) 年以降、回復傾向にあります。

④ 観光の動向 【P. 39】

■観光客数は、平成 30 (2018) 年に大きく増加しています。

(5) 財政

① 歳入 【P. 40】

■歳入は、40 億円前後で推移しています。

■町民税は、他の費目と比較し変動が大きくなっています。

② 歳入 【P. 41】

■歳出は、36～40 億円で推移しています。

■扶助費は、緩やかな増加傾向となっています。

③ 財政状況 【P. 42】

■財政力指数と経常収支比率は、類似他団体と比較し高い水準となっています。

(6) 地価 【P. 43・44】

■住宅地の平均地価は下落する一方で、工業地の平均地価は上昇しています。

(7) 災害

① 地震 【P. 45】

■町南部の中村川沿岸と藤沢川沿岸、秦野中井 IC 周辺は揺れやすい地域となっています。

② 水害 【P. 46・47】

■一部地域では3 m以上（5 m未満）の浸水が想定されています。

③ 土砂災害 【P. 46・47】

■土砂災害の恐れのある区域は、町全体に分布しています。

④ 避難所等 【P. 46・47】

■指定緊急避難所は、小中学校等の公共施設 5 箇所指定されています。

(8) 都市機能

① 公共施設 【P. 48・49】

■主な公共施設は、行政施設、文化施設、スポーツ施設などが整備されています。

② 都市機能施設の配置状況 【P. 50】

■商業は、平成 26（2014）年以降、回復傾向にあります。

(9) 都市施設

① 都市計画道路の整備状況 【P. 51】

■都市計画道路は、4 路線中 3 路線が整備済となっています。

② 公園の整備状況 【P. 52・53】

■公園は、27 箇所整備されています。

③ 公共下水道整備の整備状況 【P. 54～56】

■公共下水道（汚水）は、計画区域内人口に対する普及率が 97.4%、計画面積に対する普及率が 80.4%となっています。

(10) 文化財 【P. 57・58】

■国登録記念物や神奈川県指定の天然記念物のほか、町指定の重要文化財などが分布しています。